

令和元年度

横浜市立 高等学校
及び
併設型中学校

自己評価書

横浜市立南高等学校附属中学校

<学校情報>

1 課程・学科 併設型中高一貫教育校

2 学校長 三浦 昌彦 (平成31年4月1日現在 在職1年目)

3 学校教育目標

- ① 学びへの飽くなき探究心の育成
- ② 自ら考え、自ら行動する力の育成
- ③ 未来を切り拓く力の育成

4 教育方針

- ① 国際社会で活躍するリーダーの育成を目指す学校
- ② 6年間の一貫教育で健全な心身をはぐくむ学校
- ③ 質の高い学習により、高い学力を習得できる学校
- ④ 生徒が互いに切磋琢磨し、常に活気に溢れている学校

5 教職員数 (令和元年12月1日現在)

学校長 1 校長代理 1 副校長 1
教諭 23 (男 13、女 10)
養護教諭 1 事務職員 1
A E T 1 非常勤講師 4

6 生徒在籍数 (令和元年12月1日現在)

年次(学年)	学級数	男子	女子	合計
1	4	76	84	160
2	4	76	84	160
3	4	76	84	160
合計	12	228	252	480

7 回収率

		依頼数	回答数	回収率
教職員		24	24	100%
生徒	1年	160	154	96.3%
	2年	160	159	99.4%
	3年	160	160	100%
	合計	480	473	98.5%
保護者		480	431	89.8%

8 自己評価実施日

教職員	令和元年11月19日～ 令和元年11月22日
生徒	令和元年11月19日～ 令和元年11月22日
保護者	令和元年11月19日～ 令和元年11月22日

9 集計・分析期間

令和元年 11月19日～ 令和2年 2月28日

10 自己評価書の公表方法・時期

- ・ 南高等学校附属中学校ホームページ 令和2年6月～

<自己評価>

1 横浜市立高等学校教育振興プログラムの推進状況

「中高一貫教育校として中高の連携・共同による魅力ある学校づくり」

- 中高一貫教育課程の編成と実施
- 教職員の研修の充実と指導力の向上
- 中高教職員の創意工夫と協力による活気溢れる学校組織の確立と運営

■魅力ある学校づくりの推進状況

(関連アンケート番号：教職員【教育活動】1、2、3 生徒、保護者1)

取組	<p>① 本校独自の教育課程については、入学前の学校説明会や学年だより、ホームページ等で、広く周知徹底を図った。また、各教科だけでなく『EGG(総合的な学習の時間)』を通して、「豊かなコミュニケーション能力」「論理的な思考力」「幅広い教養と社会性」「多様性を尊重する態度」等を高める活動を計画的に行った。</p> <p>② 学校のグランドデザイン（経営全体構想）をもとに、中高の6年間を見通した各教科のグランドデザインを作成した。中高職員がお互いに授業参観及び研究協議を行う研修を実施した。</p>
成果	<p>① 教職員評価項目1「魅力ある学校づくりに向けて学校全体として取り組んでいる」については87%、保護者評価項目1、2「中高一貫校として特色ある教育活動の取組」「教育課程は充実している」については、ともに全学年97%以上がそう思うと答えている。また、保護者アンケート項目9「学校生活の様子を家庭へ十分かつ適切に伝えている」について90%以上の評価を受けることができた。学校教育目標の実現を目指して、本校の特色ある教育の実践に取り組んできた内容については、十分に周知され、引き続き高い評価を受けているといえる。</p> <p>② 中高合同で各教科の指導の方向性を示すグランドデザインを作成することができた。中高授業研究会では「主体的・対話的で深い学びに向けた授業の実践」について研修し、中高それぞれの職員の授業力向上に役立てることができた。</p>
課題	<p>① 本校の特色の一つ『EGG（総合的な学習の時間）』については、概ねねらいを達成し、生徒にとって充実した活動になっている。各学年の成長段階に合わせた取組が定着しているが、より興味深い講座やテーマの見直しを引き続き行っていく必要がある。</p> <p>② 令和3年度の新学習指導要領の全面実施に向けて、各教科で連携を深め、中高6年間のカリキュラムを検討する必要がある。</p>
改善策	<p>① 中高一貫教育校としての教育課程の内容について、年度当初だけでなく定期的に研修を行い、その役割を担う教員の指導力の向上を図る。EGGの取組として、より根拠をもって世界の出来事に関心をもつために、国内の課題を探究する活動を設ける。</p> <p>② 年度当初の学校経営アドバイザーによる研修はもとより、中高6年間の一貫した教育のための授業力向上を図る研修を計画する。「新学習指導要領全面実施」を踏まえたカリキュラム編成のための中高職員の検討会をもつ。</p>

2 教育活動の状況

■教科指導の状況

(関連アンケート番号：教職員【教育活動】4、5、6生徒 授業評価 保護者2)

取組	<p>① 学校のグランドデザイン（経営全体構想）をもとに、中高の各教科会において生徒の実態や目指す生徒の姿などについて話し合い、各教科のグランドデザインを作成した。また、各教科のチーム意識を高め、協働して年間指導計画の作成や日々の授業づくりに取り組んだ。</p> <p>② 年3回実施の『学力推移調査』と年1回実施の『中学総合学力調査（1、2年対象）』において、模擬試験の結果をもとに全職員で学力分析会を行い、学校全体や生徒個々の学力の推移、実態などについて情報を共有した。</p> <p>③ 平成30年度の課題・改善策として挙げられていた『EGG（総合的な学習の時間）』の再構築については、学習指導部を中心に検討を重ね、令和元年度は特に2年生の1学期の学習内容を変更して実施した。</p>
成果	<p>① 各教科において、生徒の実態や目指す生徒の姿などについて話し合う機会を持つことにより、6年間を見通した指導の方向性がより明確になり、教科のチーム力が向上した。</p> <p>② 模擬試験の結果を分析し、全職員で共有することにより、学校全体の総合的な学力の推移や、目標の達成状況、課題などを全職員が把握し、共通理解のもと、一致して学力向上に取り組むことができた。</p> <p>③ 『EGG（総合的な学習の時間）』のカリキュラムの一部変更については、ねらいや目指す生徒の姿などを踏まえ、学習指導部と当該学年が連携して学習内容を立案し、実施することができた。</p>
課題	<p>① 生徒の基礎的な学力の向上を図るために、現在、各学期に1回ずつ、5教科一斉に『基礎力診断テスト』を実施しているが、実施の方法や時期などを各教科で工夫することにより、学習効果をさらに高めていくことができるといふ意見もあり、『基礎力診断テスト』のよりよい実施の在り方について、検討・改善の余地がある。</p> <p>② 『EGG（総合的な学習の時間）』について、今年度カリキュラムの一部変更を行ったが、より充実したカリキュラムにしていくため、引き続き、中学3年間・中高6年間を見通したねらいや目指す生徒の姿と照らし、学習内容や方法の見直しを図っていく必要がある。</p>
改善策	<p>① 『基礎力診断テスト』の改善策として、たとえば、現行のように5教科一斉に実施する方式を廃止し、各教科の授業内において、単元の学習が終わるごとに単元テストを実施するなどが考えられる。よりよい実施の在り方について、学習指導部を中心に検討・改善を行う。</p> <p>② 令和元年度に引き続き、『EGG（総合的な学習の時間）』の再構築を進めていく。</p>

□生徒会活動・学級指導の状況

(関連アンケート番号：教職員【教育活動】7、8 生徒2 保護者4)

<p>取組</p>	<p>① 「附属中学校の生徒会活動の方針」に則って、全職員で学校行事や委員会活動、学級活動の指導にあたった。</p> <p>② 生徒会本部および生徒会企画委員会から「中学生の主体的な活動」を目指す発信をし、種々の取組を実施した。</p> <p>③ 中高連携の生徒会活動のスリム化と充実を図るため、年度初めに中高合同生徒会企画委員会を実施した。また、中高の生徒会本部役員による定例会を実施した。</p>
<p>成果</p>	<p>① 各委員会および生徒会本部の活動において、生徒主体で年間活動計画や予算を立てて活動し、日々の活動や行事の企画・運営を行うことで、「中学生としての活動」が充実している。</p> <p>② 生徒会企画で3学年間の生徒の交流会を行うことができた。各学級と生徒会企画委員会での検討を重ねることで、生徒自身が自分たちの手で話し合いながら物事を決定し、運営していくことを学ぶことができた。</p> <p>③ 年度初めに中高合同生徒会企画委員会を設定したことで、新高1と新中3の生徒間で前年度の委員会活動の反省をもとにした円滑な引き継ぎを行うことができた。また、この会を通して中高それぞれが委員会の名称および活動内容の確認をすることができた。中高の生徒会本部役員による定例会によって、中高の役員同士の関係が深まり、委員会の活動状況の共有や合同生徒会企画の考案をすることができた。</p>
<p>課題</p>	<p>① 生徒集団のリーダーシップやフォロワーシップの育成は、学級や学年、全校など多角的な視点から行われていくことを全職員が共通認識として持ち続けていく必要がある。</p> <p>② 生徒評価項目2「生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている」の数値から、評価項目の意図を生徒がきちんと理解できていないことが課題であると考えられる。「生徒会活動」には学校行事や学級係活動なども含まれることを生徒一人ひとりが理解できるよう、多方面から働きかけていく必要がある。</p> <p>③ 中高合同で活動する学校行事や生徒会活動のスリム化と充実が課題である。</p>
<p>改善策</p>	<p>① 学級係活動は「一人一役」を前提に、単なるルーティン化や形骸化しないように、年度途中で学級や学年で係活動の振り返りを設定し、生徒自身による活動の充実や創意工夫をうながすなど一層の活発化を目指していく。</p> <p>② 学校行事、学級係活動、委員会活動など具体的な場面や振り返りの中で、生徒の活動を具体的にほめながら、「主体的な生徒会活動」に気づかせていく。</p> <p>③ 中高合同で活動する学校行事や生徒会活動のスリム化と充実に向けて、新高1と新中3が連絡を取りつつ委員会活動を引き継げるよう、次年度以降も中高合同生徒会企画委員会を設定する。また、高2が中高の学校全体に関わる運営を行う一方で、高1と中3がそれぞれの学校の窓口となることを自覚させ、連携のとれた円滑な中高合同の活動となるよう継続して支援していく。</p>

□生徒指導の状況

(関連アンケート番号：教職員【教育活動】9 生徒3、4 保護者3、5)

取組	<p>① 生活委員会において、委員長を中心に生徒が主体となって議事進行、企画運営を行った。学年集会や新入生オリエンテーションで、(学校生活・防犯・安全等について)生徒全体に呼びかけを行った。</p> <p>② 養護教諭やスクールカウンセラーを交えた生徒指導情報交換会や管理職を交えたいじめ防止対策委員会を月1回以上行い、情報交換と指導方針の確認をした。令和元年度は、生徒指導専任教諭、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラーによる情報交換会も開催した。</p>
成果	<p>① 港南区の防犯サミットに参加し、「SNSの危険性」について調査・研究し、学年集会で発表した。また、いじめ防止の発表を生活委員会で検討し、学年集会で発表することで、自分事としてとらえることができた。</p> <p>② 職員反省アンケートで生徒指導の取組がきちんとなされているという項目が「十分に」と「おおむね」で88%だった。生徒理解と情報交換に基づいて、生徒指導ができた。</p>
課題	<p>① 令和元年度も、地域の方から登下校時のマナーに関して、ご意見をいただいた。せまい道を1列で歩くことや譲ることについてのご意見が多かった。基本的なマナーを今後も徹底する必要がある。</p> <p>② 生徒反省アンケートの、「先生は生徒の不安や悩み事などについて親身になって相談にのっている」という項目で1年生が85.1%、2年生が89.9%、3年生が90.1%という結果であった。一定の評価を得ているが、さらに高い評価を目指したい。</p> <p>③ 職員反省アンケートで、生徒指導の取組がきちんとなされているという項目で「おおむね」という回答が“13”、「あまり」が“3”、昨年より低い結果だった。向上させていく必要がある。 (※平成30年度 「おおむね」=15、「あまり」=0)</p>
改善策	<p>① 新入生が入学してすぐの頃から登下校のルールやマナーについて、学級活動の時間や学年集会などで説明をする。生活委員が中心となって新入生オリエンテーションで生徒主体の発信をする。</p> <p>② 定期的な教育相談を今まで通りおこなうだけでなく、昼休みや放課後の時間などの生徒と一緒にいる時間を大切にしながらコミュニケーションを深め生徒理解をしていく。</p> <p>③ 各学年の生徒指導係を中心に、学年ごとの生徒指導を行い、生徒指導情報交換会やいじめ防止対策委員会で内容を共有することで、学校全体で生徒指導に取り組む体制の深化を進めていく。3学年の生徒指導係が連携して、生徒指導にあたっていく。</p>

□保健指導・環境美化の状況

(関連アンケート番号：教職員【教育活動】10、11生徒5、6 保護者6、7)

<p>取組</p>	<p>① 保健美化委員会（委員長）を中心に、生徒が主体となって健康について考え、学校保健委員会では「お掃除改革」をテーマに身の周りの環境美化について研究・協議をし、発表をした。</p> <p>② 毎月の委員会時に手洗い場の環境美化活動と石鹸補充、各クラスで出たミックスペーパーの分別を行い、身のまわりの美化意識の向上に取り組んだ。</p> <p>③ 保健指導として、外部講師を招いて、1年生に「食育指導」「喫煙防止教室」、2年生に「飲酒防止教室」、3年生に「薬物乱用防止教室」を行い、自らの健康は自らが守っていくよう指導を行った。</p>
<p>成果</p>	<p>① 委員の生徒が主体となって環境美化や健康について考えるだけでなく、学校保健委員会などを通して生徒全体へ環境美化・健康について投げかけることができた。</p> <p>② 生徒が主体となって手洗い場の美化活動などを行うことで、生徒自身が身のまわりの環境に美化意識を持つことができ、取り組むことができた。また、ソリューションウォーターの使用を呼びかけることで、生徒自身が自他の健康について考え、行動することができた。</p> <p>③ 保健指導を通して、自らの健康は自らで守っていくことの大切さを感じることができた。</p>
<p>課題</p>	<p>①②保健美化委員会の生徒を中心に健康や環境美化について考え、活動してきたが、学校保健委員会に委員以外の生徒が全員参加することができなかつたり、ソリューションウォーターの利用が継続されなかつたりと、委員以外の生徒に周知ができていないこともあった。</p> <p>③ 保健指導について、生徒や保護者の中には十分ではない、または分からないと回答している人も見受けられた。「健康管理に関する判断材料が分からない」という回答もあるため、保健指導がどのような場面で子どもに行われているか、保護者に向けても示し、協力をあおいでいく必要がある。</p>
<p>改善策</p>	<p>①全校生徒、保護者も参加できる学校保健委員会の企画をする。</p> <p>①②保健美化委員の生徒を中心に、効率のよい清掃や自他の健康の増進等についての啓発を行い、生徒全体で学校の保健・美化に取り組むことができるよう周知を行う。</p> <p>③ 保健指導の実施報告をほけんだよりなどを通して行うなど、保護者にも保健指導が行われていることが分かるようにし、家庭でも健康管理ができるよう協力をあおいでいく。</p>

2 教育活動の状況

3 学校経営の状況

■学校教育目標、経営方針の推進状況

(関連アンケート番号：教職員【学校経営】12、13 生徒7)

取組	<p>① 生徒（児童）・保護者に対して、本校開設の経緯や学校教育目標、学校経営の方針について、学校説明会や保護者会、5月の教育課程説明会等を通して、繰り返し説明を行った。生徒に対して学校教育目標をわかりやすく理解させるために、2年生の道徳でその解釈を話し合い、内容を工夫して掲示・発表する活動を続けている。</p> <p>中高接続の取組として、3年生を対象に南高校卒業生から、充実した高校生活を送り、将来の夢を実現するための心構えを聞く講演会を実施した。また、高校の保護者対象の高大接続の講演会に中学の保護者も参加できるようにした。保護者・生徒に対する進学説明会の時期や内容の整理・見直しを行い、内進者へ高校教育についての周知を図った。</p> <p>② 「豊かな人間性の育成」を目指し、各学年の発達段階に応じて重点項目を決め、道徳や『EGG』、特別活動等で指導した。</p> <p>年度当初に『EGG』の目的や意義などを全職員で確認する研修を行った。</p>
成果	<p>① 保護者アンケートでは、すべての項目において88%以上の評価を受けており、本校の教育活動に一定の理解を得ることができた。</p> <p>生徒アンケート項目7「南高附属中の生徒であることを誇りに思っている」については、3学年共に90%以上の生徒がそう思うと答えており、本校の理念を理解し、前向きに活動に取り組んでいる生徒の姿が表れている。</p> <p>② 教職員評価項目12「学校教育目標の実現に向け、全職員が取り組んでいる」については100%という結果がでた。本校がすべての教育活動において、組織的に取り組んでいるという結果である。</p>
課題	<p>① 一部の保護者より高校入学後のクラス編成やカリキュラムについての不安や詳しい説明を求める声が今年度も寄せられた。</p> <p>② 教職員評価項目12が100%であったが教職員評価項目13「学校経営方針に基づき、教職員が協力して円滑な学校経営がなされている」については91.7%であった。昨年度80.0%から上がったが、機会があるごとに中高一貫教育校の開校にあたっての理念や、それに基づく特色ある教育内容についての共通理解を図っていく必要がある。</p>
改善策	<p>① 今後も3年生とその保護者を対象に行われている高校進学説明会を南高校への進学意思決定の時期を考慮し、9月に実施していく。高校の進路指導部と連携して、大学入試の最新情報や中学生のうちに努力してほしいことなどの内容を保護者に向けて発信していく。</p> <p>② 開校当初を知る教員は少なくなっているので毎年、年度当初に学校経営方針を全職員で確認する研修会を位置づける。</p>

□職員組織・学年経営の状況

(関連アンケート番号：教職員【学校経営】14、15、16)

取組	<p>① 定例の学年会、部会（教務・総務・生徒指導・学習指導）、企画会、職員会議を計画的に設定し、議題調整と学年間の情報を事前に共有するようにした。全職員が「魅力ある学校づくり」に主体的に参画できるよう、学力向上委員会（生徒の学力向上）、研究委員会（教師の授業力向上）、人材育成委員会（生徒指導、特活等の指導力向上）の3つのプロジェクト会議のいずれかの委員会に所属するようにした。</p> <p>② 中高合同企画委員会において中高がより組織的、効率的に協働できるよう職員組織、校務分掌のワーキンググループを立ち上げ、定期的に検討を行った。</p>
成果	<p>① 教職員評価項目15「各学年の運営は、情報が共有され組織的取組が円滑に行われている」が、昨年度に引き続き92.0%という高い評価となった。学年組織の運営についてはおおむね良好である。部会の議題をネットワーク上で事前に共有できるようにしたので当日の会議を効率的に行うことができた。</p> <p>② 中高合同企画委員会において中高の校務分掌の統一について検討し、方向性を示すことができた。</p>
課題	<p>①② 依然として、教職員評価項目16「会議が効率的に運営され、教育活動や学校運営の計画等共通理解が図られる場になっている」が58.0%、教職員評価項目14「一人ひとりの教職員が意欲をもって業務に取り組むことができる組織である」が76.0%と全項目の中でも低い評価となっている。ある特定の会議や業務が原因というよりも、通常の業務に、入選や中高連携に関する業務が加わることにより、その種類や数の多さを負担に感じている職員が多い。</p>
改善策	<p>①② 会議に向けての資料はあらかじめ確認できるようにPCに集約する、そのまま本会議に利用できるようPC画面でのペーパーレス会議を行うなど、より会議の効率化を図り、職員の負担感を軽減する努力を続ける。</p> <p>また、中高合同企画委員会と連携し、組織の再編や行事のあり方の検討を進めていき、中高連携に関する業務の軽減を図る。</p> <p>働き方改革の視点から、教育活動の質を維持しつつ内容を精選し、より教育効果の上がる取組を検討する。</p>

■職員研修・研究の状況

(関連アンケート番号：教職員【学校経営】6)

取組	<p>① 例年開催していた、公開授業研究会をとりやめ、校内における授業力向上研修を中高全職員で行った。職員一人ひとりの日々の授業改善に向けた意識の向上を図ると共に、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取り組みを各教員及び各教科で行った。また、研修後に教科ごとに分科会をもつことで、6年間を見据えた教科としてのグランドデザインを話し合うことができた。</p> <p>② 学校経営アドバイザーの高木先生を講師とした中学校内研修を年間通して4回実施した。</p>
成果	<p>① 授業力向上研修の授業者だけでなく、多くの職員が研究授業に関わることで、自身の授業の在り方について考え、授業改善に取り組むことができた。</p> <p>② 教育課程委員会から独立し、中高研究推進委員会として企画・準備を進めたことで、円滑に当日の運営を行うことができた。</p> <p>③ 学校経営アドバイザーによる個別指導を通して、一人ひとりが、より良い授業づくりの方向性について考えることができた。また、4月と11月に高木先生による中高職員に向けた講演を行い、情報の共有化を図ると共に、今後の学習活動の方向性などについて改めて考えることができた。</p>
課題	<p>① 各職員の日々の授業改善に向けた意識をさらに向上させ、継続的な授業力向上に向けた取り組みを進めていかなければならない。</p> <p>② 現在の状況等を考慮にいれながら、研修会の時期や持ち方について、中高研究推進委員会で検討を重ねていく必要がある。</p> <p>③ 今年度は講師による授業研究会の実施回数が例年より多く、講師との連携を深めることができた。来年度の日程も決まり、授業力の向上に向けた取り組みをさらに活性化させていく。</p>
改善策	<p>① 次年度も引き続き、校内における研究授業等を行うことで、各職員の授業力向上に向けた取り組みを進めていく。</p> <p>② 研究推進委員会の活動をより活性化させ、全職員が負担なく、日常的に研修を進めていくことができる環境づくりを進めていく。</p> <p>③ 公開授業研究会のより良い在り方について、中高で検討を重ねていく。</p>

□学校経理、施設設備および情報の管理状況

(関連アンケート番号：教職員【学校経営】18、19、20、21 生徒 8、9 保護者 7、8)

取組	<ul style="list-style-type: none"> ① 予算委員会において管理職及び各教科・担当と連携したうえで予算編成をし、教育環境の整備を行った。 ② 公金及び準公金の透明性確保のため、保護者や市民に対して積極的に情報公開を行った。 ③ 情報担当及び管理職と連携し、個人情報保護におけるルールの周知、情報セキュリティ対策のための横浜市による変更等の設定を職員端末に行った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ① 天吊りテレビの撤去、教科備品の更新を行うなどの要望に応え、95%以上の評価を得ている。 ② 公金においては本校ホームページ上及び学年だよりにて、準公金においては会計報告書において通知を行い、その結果 95%以上の評価を得ている。 ③ 教育委員会の指示通りに管理を行い、80%以上の評価を得ている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎年度、教育委員会から生徒用ノートパソコン等が配当されており、それら情報機器が学習において活用できるよう予算面から対応する必要がある。 ② こちらから概要を発信するだけでなく、常日頃から保護者及び市民に説明できることが必要である。 ③ 情報セキュリティ対策に万全ということではなく、日々管理の強化が必要である。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ① 情報担当と連携し、予算配分を行う。高校の担当者及び事務とも連携し、予算が効果的に執行されるようにする。 ② 公金及び準公金の執行においては保護者及び市民の理解を得られるよう、常に横浜市のコンプライアンスを順守する。 ③ 最新の情報を職員に対して迅速に伝えるだけでなく、わかりやすい説明及び担当者自身による設定を行う。

□保護者・地域との連携協力の状況

(関連アンケート番号：教職員【学校経営】11、12)

<p>取組</p>	<p>① 中高一貫教育校として高校と一体の組織で、PTA活動を行っている。中学校のPTA独自の活動として、PTA中学校懇話会を開催し、情報交換を行った。</p> <p>② PTA主催の研修懇親バス旅行の実施、体育祭や文化祭・合唱コンクール等の行事・EGG等の発表会では、保護者の参観を呼びかけている。</p> <p>③ ホームページや学年だより等で、学校の教育活動の情報提供を行い、地域等との連携協力を図っている。</p> <p>④ 平成30年度に引き続き、同窓会と連携し、生徒の保健美化委員が中心になって地域清掃に取り組んだ。</p> <p>⑤ 「永谷地区支えあいネットワーク」に生徒指導専任教諭が参加し、ケアプラザを中心とする地域との連携を行った。</p>
<p>成果</p>	<p>① 6月、11月、3月の3回中学校PTA懇話会を設定し、学校から情報発信を行うことができた。</p> <p>② 「永谷地区支えあいネットワーク」への参加を通じて、ケアプラザとの連携を深めることができ、ケアプラザのコーディネートによる「認知症サポーター養成講座」を開催し、高齢者福祉について地域の方と学ぶ機会がもてた。</p>
<p>課題</p>	<p>① 通学区域が広く、地域との関係が希薄になっている部分がある。</p> <p>② 登下校のマナー等に関して、地域の方からご意見をいただくことがある。</p>
<p>改善策</p>	<p>① 保護者のみならず、卒業生や地域の方々との連携協力を目指す。</p> <p>② 登下校に関して、職員による登下校指導を継続する。また、バスや電車内のマナーなど学級や集会で指導する。</p> <p>③ 学校ホームページ（「附属中日記」）や学校便りなどを活用し、学校の取組や生徒の様子を発信する。</p>

□危機管理の状況

(関連アンケート番号：教職員【学校経営】13、14生徒10)

取組	<p>① 4月に帰宅経路確認訓練、9月に防災訓練を行った。</p> <p>② 方面別帰宅経路を各学級の教室に掲示、周知をした。</p> <p>③ 道徳等の時間を活用し、実際の災害時を想定する場面を設定した（避難所運営4コマ漫画、避難所運営ゲームなど）。</p>
成果	<p>①②③（職員）項目25「学校防災計画に沿って、緊急避難場所や避難経路・避難方法等の周知徹底がなされている」について「十分に・おおむね達成された」と回答した職員の割合が70%目標を達成したのは、4月の帰宅経路確認訓練および9月の防災訓練や授業での活動の一定の成果と言える。</p> <p>①②③（生徒）項目10「自分は災害時の避難経路を把握している」について「そう思う・ややそう思う」と回答した生徒の割合が全ての学年において70%目標を上回った。</p>
課題	<p>①生徒項目10「自分は災害時の避難経路を把握している」について昨年度同様「そう思う・ややそう思う」と回答した1年生の割合が、2、3年生と比べるとやや低めである。</p> <p>②災害発生時の対応について職員への周知徹底が不十分である。</p> <p>③「震度5強以上の地震発生時は生徒を留置く」という原則に反して行っている方面別帰宅経路確認訓練が混乱の元になっている。</p>
改善策	<p>①入学したての1年生は校舎のことをよく知らないまま4月の訓練に臨む現状があるので、その後も定期的に避難経路の確認をする機会を設ける（学活、道徳など）</p> <p>②③現状に合わせた学校防災計画の改定および保護者への引渡しを想定した形での避難訓練の改善を行う。</p>

□学校に関する情報公開の状況

(関連アンケート番号：教職員 15 生徒 11 保護者 9)

取組	<p>① 学校ホームページでは、全職員で日々の学校生活の様子を紹介していく「附属中日記」や各種たよりを定期的に更新し、迅速な情報公開に努めた。また、入学関係情報を適時発信し、広報活動にも積極的に取り組んだ。</p> <p>② 個人情報の取り扱いに関しては、年度初めに保護者へ文書を配布して運用のしかたを周知するとともに、学校ホームページに個人が特定される情報を公開しないなど、適切に管理した。</p> <p>③ 授業参観、学校説明会、施設見学会など、各方面に向けた情報公開の場を設けた。また、学校運営協議会における学校評価や生徒、保護者学校評価の結果を公開し、開かれた学校づくりに努めた。</p> <p>④ 学年だよりとホームページ「附属中日記」との記事のすみわけをしている。学年だよりでは学校・学年行事やEGG学習の様子などを生徒の声を中心に構成している。「附属中日記」では日々の授業風景など、家庭には届いていないだろう日常の事柄についても掲載している。</p>
成果	<p>① 学校評価において、各種たよりやホームページ等での情報公開について、生徒、保護者ともに90%以上の評価を得た。</p> <p>② 個人情報の適切な管理に努め、職員学校評価における「情報管理」の項目で100%の評価を得た。</p> <p>③ 授業参観、施設見学会などにおいて本校の教育活動を実際に参観していただくことによって、在校生の保護者や、本校の受検を考えている小学生・保護者、関係機関職員など、多くの方々に本校の取り組みや成果をより深く理解していただくことができた。</p> <p>④ 学年だよりでは登下校のマナーなど、地域からの連絡に対応した3学年共通紙面をつくり、地域における附属中学校の課題およびその取り組みを、各家庭や諸機関に伝えることができた。</p>
課題	<p>○ホームページが更新可能な端末が職員室に1台しかないこともあり、業務多忙な時期などに「附属中日記」の更新が滞ってしまうことが課題として挙げられる。</p> <p>○保護者学校評価の回収数が各学年 160 人在籍中 139、138、154 となっている。各種たよりや資料が家庭へ確実に届いているか、課題として挙げられる。</p>
改善策	<p>○ホームページ「附属中日記」の更新ペースを、業務多忙時期以外で可能な限り向上させる。</p> <p>○日常的に、各種たよりや資料を教室配布する時に生徒へ声かけをし、配布物が家庭に届いているかを保護者とも話題にしていく。</p>

4 いじめへの対応に関する項目

□いじめへの対応

(関連アンケート番号：教職員 16 生徒 3、4 保護者 3)

取組	<p>①職員によるいじめ防止対策委員会を月1回開催し、各学年の生徒情報共有や、学校いじめ防止基本方針の改訂について話し合った。</p> <p>②いじめに関するアンケートを12月に横浜市の統一書式により無記名で実施した。5月と11月に記名式のアンケート（QU）を行った。</p> <p>③生徒の環境の変化や長期休業明けを考慮して、4月と8月に全クラス担任による教育相談を実施した。より安心して充実した学校生活に向け、校長代理による相談を11月から1月にかけて1年生を対象として行った。</p> <p>④学級活動や道徳、総合的な学習の時間でコミュニケーション力を高め、安心して生活できる環境づくりをおこなった。</p> <p>⑤生活委員会の生徒が12月の学年集会にて、いじめ防止の発表を行った。</p>
成果	<p>①いじめ防止基本法の定義に基づき、いじめはどこにでも起こりうるということの共通認識のもと、職員による情報収集ができた。いじめ防止対策委員会ではいじめに関する情報を共有し、チームとして対応することができた。</p> <p>②アンケートの結果を見て、気になるクラス・学年では追加のアンケートやクラス全員の臨時教育相談など、迅速な対応をとり、課題解決につながった。</p> <p>③教育相談により、生徒と担任の関係を築くことができ、何か困ったことがあったときに相談できる体制を作り、安心して相談できるようにした。</p> <p>④グループワークトレーニングにより、仲間と協力して課題解決する姿勢ができた。</p> <p>⑤生活委員会の生徒がいじめについて発表することで「自分事」としてとらえ、生徒自らがいじめ防止に取り組む意識を育むことができた。</p>
課題	<p>①アンケートに頼らず、日常生活の中で生徒理解を深める必要がある。</p> <p>②生徒による学校評価で、「生徒の不安や悩み事などについて親身になって相談にのっている」という項目で、「そう思う」と回答する生徒が少ない。</p> <p>③生徒による学校評価で、「いじめや差別を許さない環境づくりに努めている」という項目で、「わからない」と回答する生徒が平成30年度同様約11%いる。</p>
改善策	<p>①令和2年度もアンケートを実施するとともに、休み時間や放課後に生徒と一緒に過ごす時間を大切にして、生徒理解を深める。</p> <p>②教育相談で時間を確保して、生徒の話をじっくり聞く傾聴姿勢を大切にする。休み時間や放課後なども利用して、日ごろから生徒に寄り添う姿勢を重視する。</p> <p>③普段の授業で行っているグループワークや道徳、『EGG』などがコミュニケーション力の育成につながり、いじめの未然防止につながることを職員が今一度意識し、オリエンテーションで説明するなどして生徒にも意識付けを行う。</p>

令和元年度

自己評価書資料
学校評価アンケート集計表

生徒アンケート
保護者アンケート
職員アンケート
各教科授業評価

横浜市立南高等学校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	合計	70%目標
1	教育活動等について	学級で良好な人間関係を築いている。	97	40	7	2	7	153	93.8%
2		生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている。	86	46	8	7	5	152	89.8%
3		先生は生徒の不安や悩み事などについて親身になって相談にのっている。	62	52	14	6	19	153	85.1%
4		南高校附属中学校はいじめや差別を許さない環境作りに努めている。	65	47	13	8	20	153	84.2%
5		南高校附属中学校は生徒の健康管理について適切な指導をしている。	84	51	10	4	5	154	90.6%
6		南高校附属中学校は資源リサイクルや環境美化について積極的に取り組んでいる。	76	51	6	4	16	153	92.7%
7	学校生活等について	南高校附属中学校の生徒であることに誇りを感じている。	101	39	3	5	6	154	94.6%
8		南高校附属中学校の施設・設備面の教育環境が充実している。	134	16	2	1		153	98.0%
9		南高校附属中学校は生徒の個人情報適切に管理している。	111	19	1	1	21	153	98.5%
10		災害時の校内の避難経路を把握している。	60	52	22	11	9	154	77.2%
11		南高校附属中学校は学校ホームページや学年便りなどを活用し、必要な情報を提供している。	102	36	4	3	9	154	95.2%

<学校評価を受けて>

(a) 取り組み

- ① 学校生活の土台づくりを目的として、年度当初に、各種オリエンテーション、PAA、グループエンカウンター研修、コミュニケーション研修を集中的に実施するとともに、面談や教育相談を年間を通じて継続的に行った。(項目1、3、4)
- ② 日常的な関わりや各種アンケートなどを通して、生徒一人ひとりの状況の把握に努め、情報を共有した。また、朝学活の担任リレーや道徳リレーなどを通して、学年職員で協働して学年経営に取り組んだ。(項目1、3、4)
- ③ 学活の時間を活用して、生徒主体のレクリエーション活動を積極的に行い、学級や学年の親睦を深めた。(項目1、2)
- ④ 学習習慣や睡眠習慣の改善を促すため、学年集会での啓発や「わたしの週プラン」などを活用した生活指導に取り組んだ。(項目5)
- ⑤ 学年だよりや学級通信などを定期的に発行し、学校生活の様子などが家庭に伝わるよう情報を発信した。(項目9、11)

(b) 成果

- ① ③4月当初、人間関係がほとんど無い状態からのスタートであったが、項目1「学級で良好な人間関係を築いている」の質問に9割以上の生徒が肯定的な回答をするなど、学校生活の土台づくりについて十分な成果が得られた。
- ② 学校生活や学習に対して不安感や困り感を持つ生徒に対して、職員全体で協働して支援を行うことができた。
- ④ 項目5の質問に「そう思う」「ややそう思う」が90%を超え、学習習慣や睡眠習慣の改善を促すことができた。
- ⑤ 各種便りを通して、本校の取り組みや学校生活の様子などを、生徒と保護者により詳しく知ってもらうことができた。

(c) 課題

- ① 項目10「災害時の校内の避難経路を把握している」の質問に「そう思う」「ややそう思う」が70%台であり、他の項目と比較してやや低い。
- ② 項目3「先生は生徒の不安や悩み事などについて親身になって相談にのっている」の質問に「あまりそう思わない」「そう思わない」や「わからない」と回答している生徒が一定数いる。
- ③ 項目4「南高校附属中学校はいじめや差別を許さない環境作りに努めている」の質問に「あまりそう思わない」「そう思わない」や「わからない」と回答している生徒が一定数いる。

(d) 改善策

- ① 避難経路について再度、各学級で周知する。
- ② 生徒の不安や悩み事を素早くキャッチして支援できるよう、生徒との日常的な関わりや職員間の情報の共有を引き続き大切にしていく。
- ③ 道徳、学活、集会、休み時間、実際に問題が起こったときなど、学校生活における様々な機会を捉え、いじめや差別を許さない毅然とした態度や考え方を、くり返し生徒に伝えていく。

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	合計	70%目標	1年次
1	教育活動等について	学級で良好な人間関係を築いている。	93	49	5	1	10	158	95.9%	93.8%
2		生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている。	56	60	21	15	6	158	76.3%	89.8%
3		先生は生徒の不安や悩み事などについて親身になって相談にのっている。	59	57	8	5	29	158	89.9%	85.1%
4		南高校附属中学校はいじめや差別を許さない環境作りに努めている。	56	65	12	5	20	158	87.7%	84.2%
5		南高校附属中学校は生徒の健康管理について適切な指導をしている。	72	59	9	2	16	158	92.3%	90.6%
6		南高校附属中学校は資源リサイクルや環境美化について積極的に取り組んでいる。	67	59	11	2	17	156	90.6%	92.7%
7	学校生活等について	南高校附属中学校の生徒であることに誇りを感じている。	96	42	8	7	6	159	90.2%	94.6%
8		南高校附属中学校の施設・設備面の教育環境が充実している。	126	24	4	2	3	159	96.2%	98.0%
9		南高校附属中学校は生徒の個人情報を適切に管理している。	98	18	4	5	34	159	92.8%	98.5%
10		災害時の校内の避難経路を把握している。	71	52	17	12	6	158	80.9%	77.2%
11		南高校附属中学校は学校ホームページや学年便りなどを活用し、必要な情報を提供している。	80	52	7	3	17	159	93.0%	95.2%

<学校評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>①必要に応じて、教育相談を実施し、生徒の不安を解消し、安心して学校生活を送れるよう支援した。生徒に関する情報は学年職員で共有するとともに、養護教諭やスクールカウンセラーのアドバイスを受け、多角的な生徒理解に努めた。(項目1、3、4)</p> <p>②文化祭や体育祭へのクラスの取り組みやイングリッシュキャンプなどの宿泊研修を通して、仲間意識や互いを認め合う人間関係の形成を目指した。(項目2、7)</p> <p>③生徒の主体性を尊重し、学級委員による学年レクを定期的に企画し、学年全員で親睦を深める機会を設けた。(項目1、2)</p> <p>④学習については、週プランの有効活用や定期試験に向けて計画的に学習をする、提出物の期限を守るなど、基本的な学習習慣を身につけさせる指導を行った上で、補習や再テスト、試験の解き直しなどで知識が定着するよう支援した。(項目3)</p> <p>(b) 成果</p> <p>①生徒に関して共通理解をすることで、生徒指導の場面では学年職員が協力して迅速に対応でき、生徒ならびに保護者との信頼関係構築に役立った。(項目1、3、4)</p> <p>②文化祭や体育祭、イングリッシュキャンプなどさまざまな場面で、生徒が個性を発揮し、互いに認め合い、支え合う仲間意識が生まれた。(項目2、7)</p> <p>③生徒が自分たちで計画、運営をして学年集会を行うことで、学年全体の親睦を深めると共に、互いを認め合う雰囲気が出来てきた。(項目1、2)</p> <p>④学習については、基本的な学習習慣を身につけ、地道に学習を積み重ねることで苦手意識をなくし、主体的に取り組む姿勢が育ってきた。(項目3)</p> <p>(c) 課題</p> <p>おおむね目標値には達している。</p> <p>①「生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている(項目2)」の評価がやや低く、この点が課題である。</p> <p>②「先生は生徒の不安等の相談に乗っている(項目3)」「いじめや差別を許さない環境作りに努めている(項目4)」について「わからない」と答えた生徒がいる点が課題である。</p> <p>③「避難経路の把握(項目10)」の数値が1年次よりは上がったが、他と比較すると低い数値であるので確認が必要である。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>①生徒会活動や委員会活動を主体的に行うに関しては、令和2年度は中学校の最高学年になるので、生徒会や各種委員会、実行委員会等で、リーダーシップを発揮できるよう支援していく。(項目2)</p> <p>②引き続き学年集会や教育相談を実施し、日常的に生徒とコミュニケーションを取ることで生徒が安心して学校生活を送れる環境作りをしていく。(項目3、4)</p> <p>③校内避難経路の把握は、避難訓練のみならず、日頃から繰り返し意識づけを行う。(項目10)</p>
--

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	合計	70%目標	2年次	1年次
1	教育活動等について	学級で良好な人間関係を築いている。	113	30	10	3	5	161	91.7%	97.4%	94.8%
2		生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている。	67	58	26	5	4	160	80.1%	88.2%	84.5%
3		先生は生徒の不安や悩み事などについて親身になって相談にのっている。	79	48	12	2	19	160	90.1%	86.6%	94.5%
4		南高校附属中学校はいじめや差別を許さない環境作りに努めている。	76	56	12	3	14	161	89.8%	85.0%	90.4%
5		南高校附属中学校は生徒の健康管理について適切な指導をしている。	84	49	7	5	16	161	91.7%	87.4%	90.3%
6		南高校附属中学校は資源リサイクルや環境美化について積極的に取り組んでいる。	80	53	9	3	16	161	91.7%	89.2%	94.8%
7	学校生活等について	南高校附属中学校の生徒であることに誇りを感じている。	90	49	7	7	7	160	90.8%	89.7%	94.2%
8		南高校附属中学校の施設・設備面の教育環境が充実している。	123	27	6	3	2	161	94.3%	95.6%	96.8%
9		南高校附属中学校は生徒の個人情報を適切に管理している。	108	23	1		29	161	99.2%	95.8%	95.9%
10		災害時の校内の避難経路を把握している。	103	42	10	1	3	159	92.9%	76.7%	73.3%
11		南高校附属中学校は学校ホームページや学年便りなどを活用し、必要な情報を提供している。	97	44	3	3	12	159	95.9%	94.6%	95.2%

<学校評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>① 中学3年のあるべき姿、生徒同士の人間関係についてなど、集会や各クラスの生活の中で職員がそれぞれの言葉で生徒に伝えた。カナダ研修旅行などの大きな行事もあり、人間関係を築くのに必要なことを考える機会になった。(項目1, 2, 7)</p> <p>② 学年が一堂に会する集会を、生徒の委員会中心に多く企画し、生徒の言葉でメッセージを共有することを、学年として心掛けた。(項目2)</p> <p>③ 学習が少しでも主体的になるように、将来へ目を向ける一歩としての進路学習や、自主的・計画的な卒業論文執筆などを、教員間で話し合いながら指導した。(項目7)</p> <p>④ 防災訓練やその他の機会を利用して、避難経路の確認を、各担任で昨年より丁寧に行った。</p> <p>(b) 成果</p> <p>① 日頃の指導や、職員と生徒との日常的なコミュニケーションを通して、昨年度より項目3の項目のポイントが、2年→3年にかけて、伸びている。成長段階による個々の悩みや、大きな行事・課題が多い3年生ならではの状況の中で、教員との信頼関係も高まったと思われる。</p> <p>② 上記①と同様に、項目4についても、1年の時から2年にかけて、いったんポイントが低下したものの、3年で5%程度上昇した。</p> <p>③ 生徒が主体的に企画・運営する集会を多く持つことや、先を見通した進路学習や卒業論文の執筆などを通して、附属中学校の特色を実感する機会が多くあり、項目7のポイントを保持、上昇させることができた。</p> <p>④ 毎年ポイントが低い項目10について、意識的に、機会をみて話題に出すように、学年単位で心がけた。20パーセント以上の伸びが見られた。</p> <p>(c) 課題</p> <p>ほとんど全ての項目について、肯定的な回答が、昨年(2年時)の割合より多くなっている中で、項目1と項目2について、5~8%の下降が見られる。項目2については、後輩ができ、生徒会本部も交代し、多くの生徒会活動に主体性が増した昨年度に比べ、今年度は意識があまりできていなかったと思われる。実態として各委員会の中心で議長団等の役割を持ち頑張っていた生徒も多くいたが、学年全体にその意識やモチベーションを広げきれなかったのかもしれない。</p> <p>また、項目1のポイントがやや下降している点については、成長過程の中で人間関係に悩む時期であることや、海外での研修旅行など大きな行事に向けて、人との関係性に神経を使った時期であったことが影響していると思われる。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>卒業までの数か月の中で、具体的に自分たちの学年のよさや弱点を見つめなおす時間を複数設け、3年生の中学最後の時期の過ごし方、高校生になるにあたっての心構えを考えさせた。自分たちで考えて共有したことを、少しでも実現できるように、職員で協力して指導していく。</p>

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	合計	70%目標
1	教育活動等について	中高一貫校として特色ある教育活動など、適切な取り組みをしている。	119	17	3			139	97.8%
2		南高校附属中学校の教育課程は充実したものになっている。	108	31				139	100.0%
3		お子さんは学級で良好な人間関係を築き、充実した生活を送っている。	93	32	8	1	5	139	93.3%
4		学校行事や生徒会活動は充実し、お子さんは積極的に参加している。	77	55	4	1	2	139	96.4%
5		生活習慣や規範意識を身につけさせるための適切な指導が行われている。	69	59	7	2		137	93.4%
6	学校生活等について	生徒の健康管理に関する適切な指導が行われている。	57	53	14		13	137	88.7%
7		校内の環境美化に力を入れ、教育環境がきちんと管理されている。	82	48	7		2	139	94.9%
8		各種会計報告が適切に行われている。	97	31	2	1	8	139	97.7%
9		学校の様子を家庭への配布資料や学校ホームページなどを通じて十分かつ適切に伝えている。	87	48	1	3		139	97.1%

<学校評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①特色ある教育活動の取り組みとして、1年生では、学校生活の土台づくりを目的とした「PAA」「グループエンカウンター研修」「コミュニケーション研修」や、外部講師による「読売新聞ことばの時間」「K-DEC開発教育講座」「JAXA宇宙開発講座」、夏休みを活用した「英語集中研修」「EGG選択講座」などを実施した。(項目1、2、3)
- ②日常的な関わりや各種アンケートなどを通して、生徒一人ひとりの状況の把握に努め、情報を共有した。また、朝学活の担任リレーや道徳リレーなどを通して、学年職員で協働して学年経営に取り組んだ。(項目3、5)
- ③学習習慣や睡眠習慣の改善を促すため、学年集会での啓発や「わたしの週プラン」などを活用した生活指導に取り組んだ。(項目5、6)
- ④学年だよりや学級通信などを定期的に発行し、学校生活の様子などが家庭に伝わるよう情報を発信した。(項目9)

(b) 成果

- ①項目1、2、3の質問に9割以上の保護者が「そう思う」「ややそう思う」と回答し、本校の教育活動の取り組みに対して、多くのご理解と高い満足度を得ることができた。生徒学校評価においても、「学級で良好な人間関係を築いている」の質問に9割以上の生徒が「そう思う」「ややそう思う」と回答し、6年間を見通した学校生活の土台づくりについて十分な成果が得られた。
- ②学校生活や学習に対して不安感や困り感を持つ生徒に対して、職員全体で協働して支援を行うことができた。
- ③「わたしの週プラン」などを活用して生徒の生活実態の把握に努め、保護者と協働して生活習慣の改善を促すことができた。
- ④各種便りを通して、本校の取り組みや学校生活の様子などを、生徒と保護者により詳しく知ってもらうことができた。

(c) 課題

- ①項目6「生徒の健康管理に関する適切な指導が行われている」の質問に「そう思う」「ややそう思う」と回答している割合が、他の項目と比較してやや低くなっている。このことと関連し、自由記述欄には、教材の持ち帰りのため荷物がとても重く、身体への負担を危惧する意見が散見された。

(d) 改善策

- ①課題改善ため以下の取り組みを行う。
 - ・健康管理の基礎となる生活習慣の改善については、学年集会での啓発や「わたしの週プラン」「睡眠習慣チェックシート」などを活用した指導を引き続き行っていく。
 - ・教材の持ち帰りについては、生徒の身体への負担を考慮して必要最小限となるよう各教科や指導部で検討し、決定したことを周知する。

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	合計	70%目標
1	教育活動等について	中高一貫校として特色ある教育活動など、適切な取り組みをしている。	97	38	1		2	138	99.3%
2		南高校附属中学校の教育課程は充実したものになっている。	85	50	1	1	1	138	98.5%
3		お子さんは学級で良好な人間関係を築き、充実した生活を送っている。	76	53	6	2	1	138	94.2%
4		学校行事や生徒会活動は充実し、お子さんは積極的に参加している。	65	55	12	3	3	138	88.9%
5		生活習慣や規範意識を身につけさせるための適切な指導が行われている。	61	60	10	1	6	138	91.7%
6	学校生活等について	生徒の健康管理に関する適切な指導が行われている。	55	60	12		11	138	90.6%
7		校内の環境美化に力を入れ、教育環境がきちんと管理されている。	72	54	5	2	5	138	94.7%
8		各種会計報告が適切に行われている。	98	27	5	1	6	137	95.4%
9		学校生活の様子を家庭への配布資料や学校ホームページなどを通じて十分かつ適切に伝えている。	60	62	9	4	3	138	90.4%

学校評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>①中高一貫校として特色ある取り組みとして、夏季休暇中の選択EGG講座や英語の集中研修、2学期に行われるイングリッシュキャンプを行っている。また、体育祭や文化祭などで、高校生のリーダーシップのもと、活動を共にする場面がある。(項目1、2、4)</p> <p>②生徒との日常的なコミュニケーションや生徒教育相談により、生徒が安心して学校生活を送れるよう支援すると共に、生徒情報を学年職員で共有した。また、道徳リレー等を行い、学年職員が協力して取り組んでいる。(項目1、3、4)</p> <p>③学校周辺の清掃活動や、地域ケアプラザと連携し「認知症サポーター講座」の開設を行った。また、SNSの使い方についての指導も行った。(項目1、3)</p> <p>④学校便りや学級通信、ホームページ等を通じて本校の取り組みや、学校の様子を保護者に発信した。(項目9)</p> <p>(b) 成果</p> <p>①学習に関しては、中学校と高等学校が連携し、中学校では基礎的な理解力や表現力、知識を身につけることを重視して高校へ繋ぎ、6年間の学習成果を出している。(項目1、2、4)</p> <p>②学校生活や学習に関して不安を持つ生徒を支援するため、職員が情報を共有し、協力して指導を行った。(項目1、3、4)</p> <p>③地域に根ざしたボランティア活動や福祉に関する学習の機会を設け、地域の一員であるという自覚と福祉への関心を高めることができた。また、SNSの使い方についても確認することができた。(項目1)</p> <p>④学校便りや学級通信等を通じて本校の取り組みや学校生活の様子を保護者に発信し、理解を深めることができた。(項目9)</p> <p>(c) 課題</p> <p>本校の教育活動に関して、どの項目も、おおむね9割以上の保護者からご理解と評価をいただいている。</p> <p>①項目4の「学校行事や生徒会活動に関して積極的に参加している」という項目が他と比較してやや低くなっている。</p> <p>②項目6の「生徒の健康管理に関する適切な指導」に関連して、自由記述でも、長期休業明けに荷物が多く生徒の負担が大きいという指摘もいただいた。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>①文化祭や体育祭、イングリッシュキャンプなど、さまざまな場面で生徒が中心になって企画や運営を行ったり、高校生と一緒に活動できる場を確保していく。</p> <p>②保健美化委員による教室の清掃点検や「うがい・手洗い」の励行に加え、毎日や学期末の学習用具の持ち帰りについて生徒の負担を減らす取り組みをしていく。</p>

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	合計	70%目標
1	教育活動等について	中高一貫校として特色ある教育活動など、適切な取り組みをしている。	118	36	1			155	99.4%
2		南高校附属中学校の教育課程は充実したものになっている。	110	44	1			155	99.4%
3		お子さんは学級で良好な人間関係を築き、充実した生活を送っている。	112	38	3	1	1	155	97.4%
4		学校行事や生徒会活動は充実し、お子さんは積極的に参加している。	91	55	3	4	2	155	95.4%
5		生活習慣や規範意識を身につけさせるための適切な指導が行われている。	83	56	5	1	10	155	95.9%
6	学校生活等について	生徒の健康管理に関する適切な指導が行われている。	77	60	2	2	14	155	97.2%
7		校内の環境美化に力を入れ、教育環境がきちんと管理されている。	96	53	2		4	155	98.7%
8		各種会計報告が適切に行われている。	128	21	1		4	154	99.3%
9		学校生活の様子を家庭への配布資料や学校ホームページなどを通じて十分かつ適切に伝えている。	104	48	2			154	98.7%

学校評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>①中高一貫校として特色ある取り組みとして、夏季休業中の英語集中研修、日常のEGGゼミの中での卒業研究(卒業論文の執筆)に関わる指導を行った。3年生独自の取り組みとしては進路学習や大学見学の推進なども行った。また、体育祭や文化祭などで、高校生企画・運営のもと、共に活動し、3年生として中学生全体をリードする場面を設けている。(項目1、2、4)</p> <p>②生徒との日常的なコミュニケーションに加えて、各担任を中心に機会をみて生徒と個別に話すことにより、生徒が安心して学校生活を送れるよう支援すると共に、生徒情報を学年職員で共有した。(項目1、3、4)</p> <p>③学校周辺の清掃活動や、地域ケアプラザと連携し「認知症サポーター養成講座」の開設を行った。(項目1、3)</p> <p>④学校便りや学級通信、ホームページ等を通じて本校の取り組みや、学校の様子を保護者に発信した。(項目9)</p> <p>(b) 成果</p> <p>すべての項目において、95%以上の肯定的な回答をいただき、附属中学校の取り組みを理解、支援してくれている保護者が増えているように感じる。</p> <p>①EGGの取り組みについては、1・2年生の時に実施した講座やゼミでの学習をもとに、自分でテーマを立てて進めていく卒業研究への取り組みが、保護者にも理解されていると感じる。</p> <p>②③思春期の成長過程で、家庭でも難しさを感じながら生徒の成長を見守っている様子を聞き、その背景を考えつつ生徒とのコミュニケーションをはかることができた。地域とのつながりも、少しずつではあるが意識した活動ができており、中3として前向きに関わった。</p> <p>④ホームページの附属中日記や学年だより、懇親会での担任からの話などを通じて、学年の授業・行事などの様子を保護者に発信し、保護者からも感謝の声をいただくことが出来た。</p> <p>(c) 課題</p> <p>生徒の附属中での生活や、附属中の教育活動全般について、高評価をいただいている様子が数字からわかるが、項目5や項目6については、「わからない」と回答している率が、他と比べてやや多い。</p> <p>学校での生活指導、健康管理の様子が、家庭に伝わりにくい現状があると思われる。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>・教育活動や生活指導に関する評価については、生徒が実際に楽しそうに学校生活を送る様子や生徒自身の満足度が、保護者からの評価に直接反映すると思われる。今後もひきつづき、目的を共有しながら特色のある取り組みを続けていく。</p> <p>・保護者の自由記述欄に寄せられていた「中学3年の部活動の充実」について、中高で検討を進め、次年度より高校の活動への参加時期を早め、内容の充実をじはかる、中高で取り組める文化部の活動を拡張する等の対応をしていく。</p>

令和元年度 職員学校評価 南高等学校附属中学校

		項目	十分に	おおむね	あまり	全く	判断 出来ない	無回答	合計	70%目標	30年度	
1	教育活動	第2期教育振興基本計画	魅力ある学校づくりに向けて学校全体として取り組んでいる。	8	13	3			24	87.5%	91.7%	
2		教育課程	編成	学校教育目標・学校経営目標を踏まえて編成されている。	10	12	2			24	91.7%	95.8%
3			取組	学習指導要領の趣旨及び横浜市の方針に基づき、さらに中期学校経営方針に掲げた目標の実現を目指して編成し、取り組んでいる。	8	15	1			24	95.8%	95.8%
4		教科指導	指導計画	学校教育目標・重点目標の実現に向け適切な計画を作成している。	11	12	1			24	95.8%	91.7%
5			取組	私の所属している教科は生徒の実態に応じて、指導内容や指導方法を工夫してわかりやすい授業を行っている。	16	8				24	100.0%	100.0%
6			評価評定	観点別評価規準を明確にした年間計画を立て、それに基づき適切な方法で評価・評定を行っている。	10	10	4			24	83.3%	100.0%
7		特別活動 部活動	取組	生徒の主体的、自立的な生徒会活動の活性化に向けて適切に指導している。	11	11	1			23	95.7%	95.8%
8		学級活動	生徒が人間関係を円滑に結び、充実した学校生活を送ることができるよう基礎的な生活集団の形成に資する学級経営を行うことができている。	8	15	1			24	95.8%	100.0%	
9		生徒指導	生徒の生活習慣の確立や規範意識の形成に向けて、適切な指導を行っている。	8	13	3			24	87.5%	100.0%	
10		保健指導	学校保健計画に沿って生徒の健康管理を適切に行い、また生徒の健康に対する意識を喚起している。	9	14	1			24	95.8%	100.0%	
11		環境美化	資源リサイクル等省エネ行動に学校として適切に取り組んでいる。	5	9	9		1	24	58.3%	75.0%	
12	学校経営	学校教育目標	学校教育目標の実現に向け、全教職員が取り組んでいる。	8	16				24	100.0%	92.0%	
13		学校経営方針	学校経営方針に基づき、教職員が協力して円滑な学校経営がなされている。	7	15	2			24	91.7%	80.0%	
14		職員組織 (校務分掌も含む)	一人ひとりの教職員が意欲をもって業務に取り組むことができる組織である。	7	17				24	100.0%	76.0%	
15		学年経営	各学年の運営は、情報が共有され組織的取組が円滑に行なわれている。	11	11	2			24	91.7%	92.0%	
16		職員会議等	会議は効率的に運営されており、教育活動や学校運営の計画等の共通理解が図られる場となっている。	5	9	9	1		24	58.3%	56.0%	
17		研究・研修	教職員が互いに研鑽し、力量を高めることができるように、校内の研究・研修体制が整えられている。	8	11	4	1		24	79.2%	92.0%	
18		学校 経 理	予算編成	予算委員会などの組織を設けて、予算が適切に立てられている。	19	4		1		24	95.8%	100.0%
19			会計報告	公金、準公金ともに透明性が確保され、保護者や市民に対する説明責任を果たしている。	17	6	1			24	95.8%	100.0%
20		学校施設設備	教室、特別教室、体育施設等は学習や生活がしやすいように管理が適切になされている。	8	12	4			24	83.3%	88.0%	
21		情報管理	個人情報の管理が適切である。	10	12	2			24	91.7%	100.0%	
22		保護者・地域等との 連携協力	PTA活動	PTAとの連携・協力の推進が図られている。	11	10	2	1		24	87.5%	100.0%
23			地域等との 連携協力	学校の教育活動の情報提供・説明が十分になされ、活動に対する理解が得られている。	11	11	2			24	91.7%	96.0%
24		危機 管理	安全対策	学校安全計画に沿って適正に実施されている。	10	11	3			24	87.5%	100.0%
25			防災対策	学校防災計画に沿って、緊急避難場所や避難経路・避難方法等の周知徹底がなされている。	5	14	5			24	79.2%	92.0%
26		情報公開	募集に関する学校説明会や学校情報に関する広報活動が適切に行われている。	16	8				24	100.0%	96.0%	
26		いじめの対応	いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止や早期発見、早期解決に組織的に取り組んでいる。	9	14	1			24	95.8%	96.0%	

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	42	82	27	3	154	80.5%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	61	74	17	2	154	87.7%
3		授業で学習した内容は、だいたい理解でき、また身に付いている。	78	66	10		154	93.5%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	104	39	6	3	152	94.1%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	113	35	2	2	152	97.4%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	111	36	4	2	153	96.1%
7		発問や説明は適切である。	110	37	2	3	152	96.7%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	99	45	7	2	153	94.1%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	99	44	5	2	150	95.3%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	118	28		5	151	96.7%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

①生徒が主体的に国語学習に向き合えるよう言語活動を取り入れ、「思考力・判断力・表現力」を育てる授業実践を行った。(項目2・3)
 ②単元ごとに学習計画を生徒に提示し、学習目標や身に付けたい学力を意識させ、見通しを持って学習に取り組めるよう指導した。(項目4・5・6)
 ③漢字や言語に関する基礎的な知識が定着するよう、小テストを計画的に実施し、解き直しを行わせた。また、基礎力診断テストでは、基準に達するまで解き直しや漢字の練習などの課題を出した。(項目1・3・5)
 ④全学年で「読書マラソン」を行い、進んで読書をするよう指導した。(項目3)

(b) 成果

①様々な言語活動を通して主体的に国語学習に取り組み、思考力・判断力・表現力を向上させることができた。
 ②単元ごとの学習計画を明確にし、見通しを持って学習することができた。
 ③継続的な小テストや解き直し等により、言語に関する基礎的な知識や家庭学習の習慣を身に付けることができた。
 ④「読書マラソン」を継続的にを行い、読書に親しみ、読解力の向上にも繋げることができた。

(c) 課題

授業評価に関しては、おおむね満足できる状況であるが、項目1の予習・復習に関して、他の項目より低い数値である。また、グループ学習や一斉学習などの様々な学習形態で授業を展開する際に個々に応じた支援の仕方が課題である。

(d) 改善策

家庭学習に意欲的・継続的に取り組めるよう、授業時に理解した内容の家庭での復習法を指導する等、課題を明示して、家庭学習の有用性を示していく。
 個々の学習が充実することが全ての基盤であることを意識して、様々な形態での学習活動が「思考力・判断力・表現力」の育成や深まりに繋がっていることを理解できるような指導を行っていく。

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	76	60	17	2	155	87.7%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	81	59	14	2	156	89.7%
3		授業で学習した内容は、だいたい理解でき、また身に付いている。	84	56	15	1	156	89.7%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	108	42	4		154	97.4%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	129	25	1		155	99.4%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	126	28	2		156	98.7%
7		発問や説明は適切である。	126	28	2		156	98.7%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	117	32	6	1	156	95.5%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	115	29	10		154	93.5%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	124	29	3		156	98.1%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>①多面的・多角的な思考力をつける学習を目指し、各単元で個人学習、ペアワーク、全体学習を多く取り入れた。また生徒の作品をお互いに読み合う活動を実施した。 ②思考の整理ができるようになるために、各単元の終わりには、さまざまな思考ツールを活用した。 ③基礎基本の定着を図るために、単元の終わりに小テストを実施した。また予習を促すプリントを作成し、実施した。 ④各単元でその単元を貫く課題を提示し、生徒に学習の見通しや目的意識をもたせるようにした。 ⑤学期ごとに生徒への授業アンケートを行い、授業改善に努めた。</p> <p>(b) 成果</p> <p>①プリントなどの書き込み、他者の意見を書き、多面的・多角的な考えを持つ生徒が増えた。 ②思考の整理を行うことにより、自分が考えていることを表現する力が身につけてきた。 ③継続的な学習を積み重ねる生徒の増加につながった。 ④課題の提示により、単元の見通しを持たせることで、主体的に学習に取り組む生徒が徐々に増えてきた。</p> <p>(c) 課題</p> <p>①単元を貫く課題だけでは、見通しをもつことのできない生徒もいるため、単元の課題だけでなく、より明確で細かい計画を生徒に提示することが必要だと感じる。 ②個人学習、ペアワーク、全体学習を行う際の個々に応じた指導が必要だと感じる。 ③項目9の数値が低いことから、自身の発問の仕方や授業への取り組みなどを見直すべきだと感じた。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>①より多くの生徒が主体的に学習できるように、年間計画よりも細かい計画を立て、生徒と共有する。 ②予習・復習の大切さを生徒と確認をし、予習のプリントの作成を継続していく。 ③個々にあった指導を行うためにも、より多くの机間指導で、細かい助言をしていく。 ④生徒が安心して学習に取り組む、わからないところを質問できるように積極的に指導をしていく。</p>

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	46	77	25	5	153	80.4%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	72	67	13	2	154	90.3%
3		授業で学習した内容は、だいたい理解でき、また身に付いている。	74	69	11	1	155	92.3%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	96	54	4	1	155	96.8%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	118	34	2	1	155	98.1%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	117	38			155	100.0%
7		発問や説明は適切である。	122	31	2		155	98.7%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	113	39	2		154	98.7%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	94	47	13		154	91.6%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	123	28	3	1	155	97.4%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①体系数学を教材とし、発展的な内容を扱った授業を行う。
- ②週5時間のうち、3時間を主に代数の内容を学ぶ授業、2時間を主に幾何の内容を学ぶ授業として、異なる教員で担当する。
- ③完成ノート、チェックシートを配布し、日々チェックを行う。また、計画的に学習を進めるように指導する。
- ④定期テスト、基礎力診断テスト、模擬試験などの振り返りを毎回、その方法も含めて指導し、評価する。
特に、定期テスト、基礎力診断テストの直しについては、しっかり丁寧に行った。
- ⑤基礎力診断テストの得点が8割に満たない生徒に対して、課題の提出と再試験を実施する。
- ⑥長期休みには基礎の定着を促すため、計算マラソンや課題を実施している。
- ⑦数学検定を年1回実施し、生徒の数学に対する意識を高める。
- ⑧週1回教科会を実施し、今後の予定や授業内容の確認、学年連絡等の情報交換を行う。
- ⑨授業後、振り返りシートを記入させ、生徒の疑問を把握するよう努めている。

(b) 成果

- ①生徒の理解度を見ながら進めたため、大半の生徒は内容を理解できている。
- ②数学の内容をバランスよく学習できている。進度が緩やかになり、丁寧な指導ができた。
- ③日々生徒の問題集の進捗状況を確認することができ、学力の向上につながった。
- ④個別に対応できるため、生徒の理解度や意欲の向上につながっている。また、次のテストに向けての取り組み方を考えるいい機会になっている。
- ⑤基礎の計算力の定着につながっている。
- ⑥学習する習慣が定着してきている。
- ⑦生徒の数学に対する意識を高め、通常授業の内容の習熟にもつながっている。
- ⑧教科指導、生徒指導に生かしている。
- ⑨振り返りシートの内容をもとに、生徒の疑問を把握し、解決することができた。

(c) 課題

- ・意欲的に学習に取り組めていないと感じている生徒が多い。
- ・今年度の年間授業計画と実際の進度を振り返り、週3回の授業と週2回の授業で指導する内容や単元、順番を改めて見直す必要がある。

(d) 改善策

- ・主体的・積極的に参加できる雰囲気をつくるために、生徒間で討議させたり発表させたりする授業を引き続き検討し、実施する。
- ・年間授業計画を見直し、より適切な進度で授業を進めていく。

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	75	67	13		155	91.6%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	106	46	3		155	98.1%
3		授業で学習した内容は、だいたい理解でき、また身に付いている。	100	52	3		155	98.1%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	140	14			154	100.0%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	145	10			155	100.0%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	141	14			155	100.0%
7		発問や説明は適切である。	145	9			154	100.0%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	140	14			154	100.0%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	139	15			154	100.0%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	138	15		1	154	99.4%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>①生徒が単元の見通しや目的意識をもち、主体的に学習に取り組むことができるよう、単元における1時間ごとの学習内容と評価計画を示した「学びのプラン」を作成し、配付した。</p> <p>②本物にふれる体験を重視し、観察や実験を中心とした授業を行った。</p> <p>③理科の目標である「科学的に探究する力の育成」を図るため、探究に必要な「基本的な知識や技能を習得する活動」と、習得した知識や技能を活用して「科学的に探究する活動」を計画的に単元に組み入れ、指導を行った。</p> <p>④ノートは板書を写すのではなく、各自が工夫してまとめるよう指導し、その取り組みに応じた評価を行った。</p> <p>(b) 成果</p> <p>①「学びのプラン」により、1時間ごとの授業のねらい(評価のポイント)や単元全体を通した授業のつながりが明確になり、生徒が見通しをもって、主体的に学習に取り組むことができた。</p> <p>②観察や実験を通して自然の美しさや不思議にふれ、理科への興味関心を高めることができた。</p> <p>③科学的に探究する活動を通して、「問題を見いだす」「課題を解決する方法を立案する」「結果を分析して解釈し表現する」などの、科学的に探究する力を育成することができた。</p> <p>④自分なりに考え、工夫してノートをまとめる生徒が多くなり、思考力・表現力が向上した。</p> <p>(c) 課題</p> <p>①日々の授業において、観点別の学習評価が「B」(おおむね満足できる状況)に達していない生徒へのフォローが十分にできていない点が課題として挙げられる。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>①課題改善のため以下の取り組みを重視する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の授業における評価規準(その授業で達成すべきゴール)を生徒と共有し、見通しと目標をもって毎時間の授業に取り組むことができるようにする。 ・小テストや技能テストを行い、基本的な知識や技能の習得を促す。 ・ノートにまとめたことを発表し合ったり、ノートを回覧し合ったりする活動を行い、学び合いの文化を醸成する。
--

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	103	42	10	1	156	92.9%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	89	58	8		155	94.8%
3		授業で学習した内容は、だいたい理解でき、また身に付いている。	73	65	17	1	156	88.5%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	65	64	20	7	156	82.7%
5		生徒の感性や表現の技能を高めようと授業に熱心に取り組んでいる。	115	38	2	1	156	98.1%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	92	59	4	1	156	96.8%
7		発問や説明は適切である。	92	60	2	1	155	98.1%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	96	49	11		156	92.9%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	79	64	13		156	91.7%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	114	35	4	3	156	95.5%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 歌唱、合唱の表現力をつけるため発声法を細かく指導した。 生徒の音楽理論曲の統一した定着をはかった。(例 音符、休符の長さなど) 楽しく、よりよい表現をするため曲のアナリゼを重点的に行った。 <p>(b) 成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 発声法を取得したことにより、より声ができるようになり楽しく歌えている。 多種の小学校から集まっているので基礎の初めから確認したことはよかった。 より深い表現をするのに役立った。 <p>(c) 課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 一部の男子生徒にとっては声が劇変することで苦痛も伴っていると思う。 もう少し丁寧な説明が必要である。 もう少しわかりやすい説明が必要である。 <p>(d) 改善策</p> <ol style="list-style-type: none"> 中学時代は声が出にくい(女子も変声期がある)ことをしっかり認識させ、自信をもって歌うことを楽しませたい。男子は無理せず、声が出る部分のみ歌うよう指導する。 ていねいに説明していく。 資料作成にあたりさらに工夫をする。
--

令和元年度生徒授業評価 中1美術 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	121	28	6		155	96.1%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	98	49	8	1	156	94.2%
3		授業で学習した内容は、だいたい理解でき、また身に付いている。	88	56	8	3	155	92.9%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	66	59	21	9	155	80.6%
5		生徒の感性や表現の技能を高めようと授業に熱心に取り組んでいる。	94	53	6	2	155	94.8%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	98	50	6	2	156	94.9%
7		発問や説明は適切である。	95	52	7	2	156	94.2%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	90	48	15	3	156	88.5%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	87	53	10	5	155	90.3%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	111	38	2	5	156	95.5%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>熱心に作業に取り組んでいる。</p> <p>(b) 成果</p> <p>空間のとらえ方の理解が深まっている。</p> <p>(c) 課題</p> <p>個々に技術の差がある。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>個別に丁寧にアドバイスしていく。</p>

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	117	32	6	1	156	95.5%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	90	57	8	1	156	94.2%
3		授業で学習した内容は、だいたい理解でき、また身に付いている。	87	55	11	2	155	91.6%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	127	21	7	1	156	94.9%
5		生徒の体力や技能を高めようと授業に熱心に取り組んでいる。	133	21		2	156	98.7%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	117	37		2	156	98.7%
7		発問や説明は適切である。	117	35	2	2	156	97.4%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	97	51	5	3	156	94.9%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	108	37	8	3	156	92.9%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	118	33	1	4	156	96.8%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- オリエンテーションで保健体育科の授業の学び方、挨拶、整列、準備運動といった基本の授業規律を徹底し、集団での行動がスムーズにできるように指導した。
- 早い時期に体力テストを行うことで、自身の体力の現状を自覚させ、体づくり運動では体力向上を図るトレーニングメニューを考え実践させる場を設けた。
- どの単元も学習カードや実技の教科書、プリント等を活用して、技能の要領や練習のしかた、ルール等をしっかり理解したうえで学習に取り組めるようにした。
- 保健の授業では、横浜市立大学医学部学生による出張授業を依頼し、医療機関の活用方法や身近な病気の予防への実践力を身につける授業を行った。

(b) 成果

- 授業評価では、どの項目も90%以上と高い評価を受けた。積極的に学ぼうとする姿勢が定着してきた。
- どの単元も学習カードや振り返りカード、ワークシートを用いたことで、学習目標や学習過程が明確になり、どうすれば技能の習得、向上につながるのかを考えることができるようになった。

(c) 課題

- クラスでの友人関係がそのまま授業に影響し、消極的になる生徒がいた。生徒の生活の様子をできるだけ把握しておく必要がある。
- 体力テストの結果では、男女ともに体格は全国・県平均とほぼ同じであるが、握力・ハンドボール投げなどの筋力、筋パワーが劣っている。通学時間の長さや7時間授業など、日常生活で運動する時間が多く確保できないことが課題である。

(d) 改善策

- 運動が苦手な生徒、コミュニケーションに課題のある生徒がいることを常に意識して、どの単元でもチームやペアで協力して活動する場を大切にしていける。
- 今後も、各単元の中でパワー系の運動を主運動に加えてできるように工夫する必要がある。また、ボールを投げる動作も経験の少なさが顕著であるので、昼休み等機会あるごとに球技に親しませたい。

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	112	37	5	2	156	95.5%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	88	54	10	3	155	91.6%
3		授業で学習した内容は、だいたい理解でき、また身に付いている。	67	64	19	6	156	84.0%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	66	64	23	3	156	83.3%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	78	63	13	2	156	90.4%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	84	62	7	2	155	94.2%
7		発問や説明は適切である。	77	62	13	3	155	89.7%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	77	61	15	2	155	89.0%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	64	58	24	8	154	79.2%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	103	43	7	1	154	94.8%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>① 小学校でプログラミングの授業の開始に伴い基礎学習を発展させる教材として、課題は具集を行わせ課題学習を意識し行っています。</p> <p>② また、自己の考え、表現は個性に合わせた力をつけるためロボットの制御プログラムを取り入れました</p> <p>(b) 成果</p> <p>① 積極的にパソコンに取り組んでいる。</p> <p>② 楽しんで表現操作し、相互に教えあえる環境を作れてる。</p> <p>③ ワープロの授業を増やしたことによりPCの利用範囲が広がっています</p> <p>(c) 課題</p> <p>① 機器の働きの重点化に更に取り組みたい。</p> <p>② 携帯電話の普及により情報入力の方法の違いとモラルの課題を考えたい</p> <p>(d) 改善策</p> <p>① PCの利用と目的を学ぶことから授業の導入を始める</p> <p>② 携帯電をとパソコンの違いと目的をはっきりくべるさせる</p>
--

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	121	33	1	1	156	98.7%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	107	43	5		155	96.8%
3		授業で学習した内容は、だいたい理解でき、また身に付いている。	95	56	5		156	96.8%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	133	21	1	1	156	98.7%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	121	34		1	156	99.4%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	114	38	3	1	156	97.4%
7		発問や説明は適切である。	115	38	1	1	155	98.7%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	113	39	3	1	156	97.4%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	121	30	4	1	156	96.8%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	112	33	5	2	152	95.4%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>○生活に必要な衣・食・住・環境と幅広い内容を日常生活に結び付け、実習と組み合わせて考える授業を展開した。</p> <p>(b) 成果</p> <p>○生活技術がしっかりと身につけているといえる生徒は多くはないが、日常生活と結び付けて授業を展開してきたことで、授業に対する興味関心は全体的に高まっている。</p> <p>(c) 課題</p> <p>○数少ない授業で多くの内容をこなさなければならず、技術を定着させるようにするためには繰り返し練習させることが必要であるが、その時間を十分にとることができない。 ○例年のことではあるが、10月から技術の授業から家庭科の授業に代わり、ほんの数回の授業で授業評価を行うのはなかなか厳しいと感じる。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>○生活技術の習得に向けて、学校の授業での繰り返し作業だけでなく、家庭で自発的に練習の機会を作ってもらえるようなより魅力的な授業内容や技術の習得意欲が高まる授業内容を考えていく。</p>
--

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	77	68	10		155	93.5%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	116	36	3		155	98.1%
3		授業で学習した内容は、だいたい理解でき、また身に付いている。	102	46	6	1	155	95.5%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	136	18			154	100.0%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	136	19			155	100.0%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	135	19	1		155	99.4%
7		発問や説明は適切である。	132	21	1		154	99.4%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	134	17	3		154	98.1%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	120	26	8		154	94.8%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	139	15		1	155	99.4%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>①手法を変えながら、教科書の本文に繰り返し触れるラウンド制の方法を、ねらいを生徒と共有しながら行い、基礎となる英語の語彙、表現、文法などが自然に身につくように授業を行った。</p> <p>②1年生のうちから家庭学習の習慣をつけるため、リスニングマラソンや書き写しチェックを実施したり、英語科通信で時期ごとに推奨する家庭学習を示したりした。</p> <p>③できるだけわかりやすい英語で授業を進め、自分のことを英語で話すことに毎時間挑戦させるなど、英語で考え、英語のやり取りで授業が進むことに慣れるように授業を行った。</p>
<p>(b) 成果</p> <p>①教科書の本文に繰り返し触れるラウンド制の、目的や取り組み方を生徒が理解し、熱心に授業中の活動に参加している様子が見られ、4番目の項目が100%であった。</p> <p>②次の学年にもつながる授業規律やコミュニケーション活動のルールが身についたと思われる。家庭学習についても、ノート学習をしっかりと行う生徒が増えており、1番の項目の回答も、肯定的な意見が昨年度より増えている。</p> <p>③教師が話す英語から意味を推測し、聞こうとする姿勢が見られ、また英語を表現する場面では、自分が知っている英語を使いながら何とかペアに伝えようとする様子が見られた。</p>
<p>(c) 課題</p> <p>①項目1について、昨年度に比べると成果が出ているものの、予習・復習に関して不十分に感じている生徒が一定数いる。</p> <p>②授業内容の理解について不安がある生徒が数名いる。</p> <p>③全ての生徒が安心して質問できる環境をつくる必要がある。</p>
<p>(d) 改善策</p> <p>①引き続き、定期的に推奨する家庭学習を示したり、定期的にチェックする仕組みをつくったりする。</p> <p>②引き続き、気を抜かず生徒の様子をしっかりと観察しながら、わかりやすい授業、生徒のモチベーションを高める授業をする必要がある。また、自分では気づきにくい成長を英語科通信などで客観的に伝えていく。</p> <p>③生徒が安心して質問ができるよう、一人一人にさらに気を配り積極的に声をかけていくなどしていく。</p>

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	20	81	43	14	158	63.9%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	51	82	21	4	158	84.2%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	64	75	15	4	158	88.0%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	95	42	13	8	158	86.7%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	110	30	11	6	157	89.2%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	100	39	9	9	157	88.5%
7		発問や説明は適切である。	107	33	11	7	158	88.6%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	95	46	11	6	158	89.2%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	91	39	19	9	158	82.3%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	107	32	12	6	157	88.5%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>①生徒が主体的に国語学習に向き合えるよう、言語活動を取り入れ、「思考力・判断力・表現力」を育てる授業実践を行った(項目2・3) ②单元ごとの学習計画を生徒に提示し、学習目標や身につけたい学力を意識させるなど、見通しを持って学習に取り組めるよう指導した。(項目4・5・6) ③漢字や言語に関する基礎的な知識が定着するよう、小テストを計画的に実施し、解き直しを課題とした。また、基礎力診断テストでは、基準に達するまで再テストや漢字の練習などの課題を出した。(項目1・3・5) ④全学年で「読書マラソン」を行い、進んで読書をするよう指導した。(項目3) ⑤全学年で、新聞の社説の視写を行い、思考力・判断力・表現力の育成の一助とした。</p> <p>(b) 成果</p> <p>①さまざまな言語活動を通して、主体的に国語学習に取り組み、思考力・判断力・表現力を向上させることができた。 ②单元ごとの学習計画を明確にし、学習のゴールである身に付けたい力を意識し、見通しを持って学習することができた。 ③小テストや解き直しを継続的に行うことで、言語に関する基礎的な知識を繰り返し学習することができた。 ④「読書マラソン」を継続的に行うことで、読書に親しむと共に、読解力の向上にも繋がった。 ⑤新聞の社説を視写することで、思考力・判断力・表現力の育成の一助とすることができた。</p> <p>(c) 課題</p> <p>①項目1の予習・復習の定着が不十分であることが課題である。具体的にどのような家庭学習を継続し積み重ねることで、国語の思考力や判断力が身につくのかを生徒に示し、主体的に家庭学習に取り組む態度を育むことが必要だと考える。 ②項目9については、評価の基準を明確にすることや、質問しやすい学習環境作りが課題である。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>①項目1の予習・復習に関しては、家庭学習の大切さを自覚して、自主的に学習にする意欲を育成していく。具体的には、授業で学習したことの理解を深め、定着させるために復習を推奨する他、漢字の小テスト等への継続的な取り組みや、各種テストの解き直しに加え、読書マラソンや今年度から全学年で始めた新聞の社説の視写を勧めていく。 ②項目9の改善策として、評価の基準を生徒にわかりやすく説明し、間違いやわからないことをそのままにせず、生徒同士で教え合ったり、教師に質問しやすい雰囲気を作っていくようにする。</p>
--

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	78	56	21	3	158	84.8%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	100	48	8	2	158	93.7%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	94	53	8	2	157	93.6%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	119	35	1	3	158	97.5%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	140	14	1	3	158	97.5%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	137	18	2	1	158	98.1%
7		発問や説明は適切である。	140	16	1	1	158	98.7%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	136	18	2	2	158	97.5%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	121	29	4	4	158	94.9%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	128	25	1	4	158	96.8%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>①変化する社会の情勢と、担当学年生徒の実情に応じた学習活動を行うため、過去の実践例を踏襲するのではなく、新たな教材の開発や学習活動の在り方を探り、その質の向上に努め、生徒の学力向上につなげられるよう試行錯誤を行った。 ②生徒の記述力を中心とした学力の向上を目指し、成果物の添削や評価などを昨年以上にを行った。また、生徒が評価を受けて、その後どのような課題に基づき、学習を組み立てていくべきなのか全体への助言を行った。</p> <p>(b) 成果</p> <p>①綿密に教材研究を重ねたことで、学習内容に関わるアンケート項目(6・7・8)では、比較的良好な回答を得ることができた。 ②個々の成果物への評価や家庭学習への助言などを通して、特に社会科に対して苦手意識を持つ生徒の学習意欲が徐々に高まってきたようである。また、提出された成果物の中で、より良いものを全生徒に例として配布したことで、生徒たちが各課題への取り組み方について具体的なイメージを持ち、自身の課題を具体的に把握することができたようである。</p> <p>(c) 課題</p> <p>①年間の学習計画や各単元の学習計画について、はっきりとした見通しをもつことができていない生徒がいるため、生徒たちが計画的に学習を進められるよう、これまで以上に具体的な学習計画を提示していく必要があると感じる。 ②評価の公平性や自身の生徒との向き合い方について、疑問を感じている生徒が見受けられる。生徒たちの学力及び学習意欲を高める評価とはどのようなものであるのか再度検討しながら、より信頼される教師の在り方について日々考え、実践を重ねていかなければならないと感じている。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>①より多くの生徒が見通しをもって学習に向き合っていくことができるよう、学習活動の年間計画をより詳細に立て、それを生徒と共有していく。また、どのような学習活動が生徒の学力及び学習意欲の向上につながるのか、日々の授業づくりに向き合う姿勢を今一度見直し、各研修などに参加する。 ②一次評価を受けた生徒たちが、その後どのような学習を行い、どのような成果を挙げているのか追跡を行い、彼らの学習活動にさらに二次的な評価を重ねることで学習意欲の向上につなげていく。また、評価の在り方について、生徒たちに改めて説明を加えることで、その公平性を高めていく。</p>

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	61	67	24	4	156	82.1%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	85	56	12	2	155	91.0%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	81	61	10	3	155	91.6%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	88	49	13	6	156	87.8%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	126	25	2	2	155	97.4%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	119	31	3	3	156	96.2%
7		発問や説明は適切である。	126	28		2	156	98.7%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	121	30	1	3	155	97.4%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	121	26	3	6	156	94.2%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	123	26	3	4	156	95.5%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>① 体系数学を教材とし、発展的な内容を扱った授業を行う。 ② 週5時間のうち、3時間を主に代数を学ぶ授業、2時間を主に幾何の授業として、異なる先生で行う。 ③ 完成ノートの提出などは事前に生徒へ連絡し、計画的に学習を進めるように指導する。 ④ 定期テスト、基礎力診断テスト、模擬試験などの振り返りを毎回、その方法も含めて指導し、評価する。 ⑤ 定期テストや基礎力診断テストの結果が悪くなかった生徒に対し、補習を定期的に行う。 ⑥ 計算力を高めるため、長期休みには計算マラソンや計算プリントを課題として出す。因数分解や2次方程式の計算テストを行う。 ⑦ 数学検定を年2回実施し、生徒の数学に対する意識を高める。 ⑧ 週1回教科会を実施し、今後の予定や授業内容の検討など情報交換を行う。 ⑨ 授業後、振り返りシートを記入させ、生徒の疑問を把握するよう努めている。 ⑩ 佐藤先生の特別講座を実施し、生徒の数学に対する意識を高める。</p> <p>(b) 成果</p> <p>② 代数と幾何をバランスよく学習できている。1つの章の進度が緩やかになり、丁寧に指導できた。 ④ 各々の苦手を把握・克服し、次のテストに向けての取り組み方を考えるいい機会になっている。 ⑤ 2学期後半からは補習を月に3～4回行い、苦手意識のある生徒に対して、学習を補うことができた。 ⑥ 計算のスピードや確実性を高めることにつながっている。単元ごとに計算テストを行うことで、指導に活かすことができた。 ⑦⑩ 生徒の数学に対する意識を高め、通常授業の内容の習熟にもつながっている。 ⑧ 教科指導、生徒指導に生かしている。 ⑨ 振り返りシートの内容をもとに、生徒の疑問を把握し、解決することができた。</p> <p>(c) 課題</p> <p>・予習・復習などの学習の準備をして、意欲的に学習に取り組めていないと感じている生徒が多い。 ・今年度の年間授業計画と実際の進度を振り返り、週3回と週2回の授業で、指導する単元や順番を改めて見直すことが必要である。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>・自宅学習や復習すべき内容を明確にし、課題や復習が必要と判断された内容を随時示し、積極的に取り組めるような発問をする。 ・次年度へ向けて年間授業計画を見直し、各担当で授業の進度を合わせるため、定期的に確認を行う。</p>

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	85	60	10	2	157	92.4%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	100	49	8		157	94.9%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	98	56	3		157	98.1%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	96	51	7	3	157	93.6%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	110	43	2	2	157	97.5%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	113	39	3	2	157	96.8%
7		発問や説明は適切である。	123	31	2	1	157	98.1%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	113	38	3	3	157	96.2%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	120	29	4	3	156	95.5%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	120	31	4	1	156	96.8%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>1. 生徒一人ひとりが自ら考えて課題を解決するための手段を考え、実行できる能力を育むために授業展開を工夫した。 2. 学習意欲が高い生徒が多いことから、高校・大学までのつながりを意識したより深い専門分野の知識を盛り込んだ授業を行った。 3. 個々で行う実験や、特にガスバーナーや薬品を扱う化学分野の授業では、高校の教員にTTをお願いし、安全に実験を行うよう指導した。 4. 理科に対する苦手意識を持つ生徒や、日常生活とのつながりを見いだせない生徒の為に、社会の地理分野や家庭科分野の内容を取り込んだ教科横断的な授業や、身近なものを多く教材に用いることを心掛けた。</p> <p>(b) 成果</p> <p>1. 観察・実験などで、決められた手法をただ踏襲するだけでなく、自ら考えた手法で課題解決を試みるなど、積極的な姿勢をみせる生徒が増えた。 2. 教科書や問題集の内容にとどまらず、今学んでいる内容が、高校や大学ではどのように発展していくのかを考えながら取り組むことができた。 3. 顕微鏡やガスバーナーの操作など、実験・観察の基本的な技能を全員が習得できた。 4. 個々工夫し、主体的に調べ学習を行う生徒が増えた。</p> <p>(c) 課題</p> <p>生徒の力量・学習意欲によって、どこまでを自分たちで考え、主体的に進行させてよいのか、の見極めをすること。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>普段の授業より、自分で考え、問題解決の手段を考案できるように指導するとともに、生徒のノートや課題をとおして、理解度・意欲を読み取り、程度に応じて実験・観察等の難度を変えていくようにする。</p>
--

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	117	31	5	4	157	94.3%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	114	35	5	4	158	94.3%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	104	42	8	4	158	92.4%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	100	45	9	4	158	91.8%
5		生徒の感性や表現の技能を高めようと授業に熱心に取り組んでいる。	118	34	3	3	158	96.2%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	108	43	4	3	158	95.6%
7		発問や説明は適切である。	96	50	9	3	158	92.4%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	102	41	11	4	158	90.5%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	100	41	11	6	158	89.2%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	110	37	7	4	158	93.0%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 歌うという基本に忠実に発声法に重点を置いた。 音楽を楽しむために導入で曲の分析を行った。 羞恥心を取り除くため多くソロ、2重唱(奏)3重唱(奏)を取り入れた。 <p>(b) 成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 2年生で変声も進みかなり歌を楽しめていると思う。 分析の結果さらに奥深い興味をもち始めた面が見られる。 自信を深め2重唱などを楽しむ様子も見られた。 <p>(c) 課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 発声は常に喚起しないと戻ってしまいがちである。 説明、時代考証など簡潔に伝わらない場合もあった。 やはり成長過程の様々な生徒達にとっては苦手意識が消えない生徒もあり苦痛を感じる場面もあると感じる。 <p>(d) 改善策</p> <ol style="list-style-type: none"> 繰り返しわかりやすい説明をし見本を示し定着を図る。 とにかく授業数が少ないので、見やすい資料、簡潔な説明を心がける。 成長過程(変声)の遅い生徒達に十分に配慮して行いたい。

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	120	33	1	4	158	96.8%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	108	44	3	3	158	96.2%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	99	52	4	3	158	95.6%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	73	46	26	13	158	75.3%
5		生徒の感性や表現の技能を高めようと授業に熱心に取り組んでいる。	88	54	8	8	158	89.9%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	98	44	9	7	158	89.9%
7		発問や説明は適切である。	94	48	11	5	158	89.9%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	92	47	10	9	158	88.0%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	106	37	7	8	158	90.5%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	110	35	5	8	158	91.8%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>熱心に作業に取り組んでいる。</p> <p>(b) 成果</p> <p>1年時より表現が深まっていると思う。</p> <p>(c) 課題</p> <p>個々の技能の差が大きい。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>個別に丁寧にアドバイスしていく。</p>
--

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	121	32	5	1	159	96.2%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	117	32	8	2	159	93.7%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	107	37	10	4	158	91.1%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	128	24	3	3	158	96.2%
5		生徒の体力や技能を高めようと授業に熱心に取り組んでいる。	127	25	4	3	159	95.6%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	120	33	3	3	159	96.2%
7		発問や説明は適切である。	120	33	3	3	159	96.2%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	102	44	9	4	159	91.8%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	112	34	8	5	159	91.8%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	119	32	5	3	159	95.0%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>① 早い時期に体力テストを行うことで、1年時と体力のレーダーチャートを比較し、確認しながら体づくり運動のサーキットメニューを考えさせ、体力の向上を図った。</p> <p>② どの単元も学習カードを用いて学習の見通しを持ち、自らの課題を把握した上で解決に向かうように授業を展開した。</p> <p>③ 球技の単元では、授業形態を工夫したりルールを緩和したりして、段階的に学習が進められるようにした。</p> <p>④ 保健の授業では、芹が谷消防署と地域消防団に出張授業を依頼し、心肺蘇生法など救命救急の基本的な技能を習得させる体験的な授業を行った。</p> <p>(b) 成果</p> <p>① 年間計画通りに授業が進められたので、評価項目4については96%の評価を得た。</p> <p>② 評価項目5「生徒の体力や技能を高めようと取り組んでいる」は、95%がそう思うと答えており、自ら考え実践する体づくり運動の取り組みが高い評価を得たと言える。</p> <p>③ 学習カードを活用して段階的に学習が進められるようにしたため、評価項目6「学習のねらいに沿った適切な学習内容である」が96%と高い評価を得た。</p> <p>⑤ 保健の授業で心肺蘇生法など体験的な学習も取り入れているため、評価項目1「意欲的に学習に取り組んでいる」が96%と高い評価を得た。</p> <p>(c) 課題</p> <p>① 評価項目3「授業で学習した内容はだいたい理解でき、また身に付いている」については91%と全項目の中では一番低かった。運動経験の少なさから、技能がついていかない現状がある。</p> <p>② 体力テストの結果については個々に見れば向上しているが、全体的な傾向として筋力・瞬発力の数値が低いことが課題である。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>① どの単元もその運動特性に応じたドリル的な動きを取り入れ、繰り返すことで運動経験の少ない生徒が段階的に技能を身に付けられるようにする。</p> <p>② 体づくり運動で作成したパワー系の運動を中心としたサーキットトレーニングを、更に年間を通して実践していく。</p>
--

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	110	41	2	5	158	95.6%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	99	47	7	5	158	92.4%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	89	57	7	5	158	92.4%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	72	51	24	11	158	77.8%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	84	51	14	9	158	85.4%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	82	52	16	8	158	84.8%
7		発問や説明は適切である。	77	49	23	9	158	79.7%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	74	47	27	10	158	76.6%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	84	48	16	10	158	83.5%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	95	48	6	9	158	90.5%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>①生活に生活に必要な知識を習得するための意識を高める。</p> <p>②課題解決の能力をつけ、創意工夫できる力を育てる。</p> <p>③歴史から現在が成り立っている発展と現代に残され利用されているものを発見活用させる。</p> <p>(b) 成果</p> <p>①もの作りについては、創造性を進化させ材料の特徴から独自の作品で表現できるようにする。</p> <p>②現在のエネルギーの現況を知り今後のエネルギーについてかんがえさせることができた。</p> <p>③作品の完成度を高めることにより達成感、成就感を感じ取らせた。</p> <p>(c) 課題</p> <p>①教科目標と充実した授業は専門の技術科教室は必修に思います。</p> <p>②ワークシートの活用充実を発展させたい。</p> <p>③作業時間の 短時間で完成できる作品を考えていきたい。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>①教材が同じさ作品ではなく、創意あるものとしたい。</p> <p>②教室と作業工具の充実を図りたい。</p>
--

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	116	38	2	3	159	96.9%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	111	42	4	2	159	96.2%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	92	59	5	2	158	95.6%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	126	26	5	2	159	95.6%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	118	35	4	2	159	96.2%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	116	38	3	2	159	96.9%
7		発問や説明は適切である。	111	40	5	2	158	95.6%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	108	41	8	2	159	93.7%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	112	37	5	4	158	94.3%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	103	37	11	8	159	88.1%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>生活技術の向上を図り、生徒にきちんと身に付けさせるため、衣生活・食生活とともに実習・実験を中心とした授業を展開し、知識をより深め、技術の向上に努めた。</p> <p>(b) 成果</p> <p>食生活分野における3回の調理実習、衣生活分野におけるエプロン製作を通し、生活する上で基礎的な技術を身に付けさせることができた。また、自分自身の生活を振り返り、健康でより良い生活を送ることの大切さを工夫し、実践する能力の必要性について考えさせる課題を与えられた。</p> <p>(c) 課題</p> <p>多くの生徒は1年次での学習を踏まえ、きちんと理解し取り組んでいると答えてはいるが、苦手意識を持っていて積極的に取り組めていない生徒も見られる。そのため、多くの生徒が学習内容をきちんと理解し、意欲的に取り組める授業の工夫が必要である。また、それに伴い提出物の自己管理も課題である。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>生徒が授業に取り掛かりやすくするために、説明等の方法を工夫し苦手意識を持つ生徒とも上手くコミュニケーションを図りながら、生徒が積極的に活動できる環境づくりを心掛ける。評価については、授業時に繰り返し伝え、生徒との共通理解を図り、意欲向上にもつなげていく。</p>

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	51	80	18	7	156	84.0%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	82	64	6	4	156	93.6%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	100	44	10	2	156	92.3%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	110	38	5	2	155	95.5%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	115	38		3	156	98.1%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	109	40	3	4	156	95.5%
7		発問や説明は適切である。	101	48	4	3	156	95.5%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	101	46	4	5	156	94.2%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	113	39	1	3	156	97.4%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	120	33	1	2	156	98.1%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>①昨年度に引き続き、手法を変えながら教科書の本文に繰り返し触れるラウンド制の方法を通して、基礎となる英語の語彙、表現、文法などが自然に身につくように授業を行った。また、家庭学習では、モチベーションの向上のために、リスニングマラソンや自学ノートの取り組みをランキング形式で発表した。</p> <p>②教科書以外の英語に触れる機会を授業の中に定期的に設け、生徒が速読して推測しながら意味をとる力や新しい分野の語彙を理解し、自分の表現に活かすことを目指した。</p> <p>(b) 成果</p> <p>①1年生から継続的に行っているラウンド制の利点や取り組み方を生徒も理解し、授業中の活動にまじめに取り組んでいる様子が見られた。その結果、目的としている英語の理解力や運用能力が少しずつ向上している。</p> <p>②異なるジャンルのトピックの英文を読むことで、教科書では扱われていない語彙や表現に、自然な英文の中で触れることができ、生徒の理解力や語彙力の向上につなげることができた。またその題材を使つての会話や音読などを通して、自分の考えを伝える練習にもなった。</p> <p>(c) 課題</p> <p>①全般的に肯定的な回答を得られているが、昨年度より課題である授業の参加への姿勢に関する項目の評価は、昨年度に比べると1パーセント上がっているものの、まだ改善の余地がある。</p> <p>②家庭学習の取り組みに意欲的に取り組む生徒の割合が昨年度より数パーセント減っているため、より多くの生徒にテスト前だけでなく、日々の学習習慣を確立させることが課題である。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>①引き続き、生徒の実態に応じた分かりやすい授業、生徒のモチベーションを高める授業を展開していく。生徒が主体的、積極的に授業に参加していると実感できるような授業の組み立てを見直す。</p> <p>②例年の2年生と比較すると、家庭学習の取り組みに意欲的に取り組む生徒の割合は高い。これは、教科会等で情報共有している成果が大きいと考える。来年度はさらに生徒が家庭学習を必要と感じるような指導計画をしていく。</p>

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	48	78	26	6	158	79.7%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	95	56	7		158	95.6%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	101	54	3		158	98.1%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	120	30	7	1	158	94.9%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	138	17	3		158	98.1%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	134	21	3		158	98.1%
7		発問や説明は適切である。	131	25	2		158	98.7%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	134	23	1		158	99.4%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	123	27	6	2	158	94.9%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	134	23	1		158	99.4%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>①家庭学習の課題内容、取り組み方法、評価の方法を明示し、家庭学習の習慣作りを促進する。</p> <p>②単元ごとの学習計画表を、生徒の実態に合わせて更新し、見直しをもって主体的・積極的に学習に取り組めるようにする。</p> <p>(b) 成果</p> <p>①全項目で、去年度と比べて「70%目標数値」の数値の微増減以上に、「そう思う」の数値が大きくなっている。生徒自身の学習への取り組み状況や教科担当の準備の充実度が向上していると考えられる。</p> <p>②項目1が去年度の81.5%を下回った。「そう思う」が増えているとともに、「あまりそう思わない」も増えている。家庭学習への取り組みが二極化していると考えられる。</p> <p>③項目2～10より、生徒は見直しをもって主体的・積極的に学習に取り組んでいると考えられる。</p> <p>(c) 課題</p> <p>①二極化する家庭学習の取り組み方について、さらに改善を図る。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>家庭学習の課題内容、取り組み方法、評価の方法や基準を強化全体で整備していく。</p>

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	46	74	33	5	158	75.9%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	77	69	10	1	157	93.0%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	79	64	11	4	158	90.5%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	94	56	5	3	158	94.9%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	130	23	3	2	158	96.8%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	116	35	3	3	157	96.2%
7		発問や説明は適切である。	104	46	4	4	158	94.9%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	125	26	4	3	158	95.6%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	98	47	10	3	158	91.8%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	123	31	2	2	158	97.5%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>① 授業の振り返りをするために、歴史的分野では要約、公民的分野では意見をまとめる活動を取り入れた。</p> <p>② ペアワークやグループワークを多く取り入れ、主体的・対話的な活動を行った。</p> <p>③ 授業で行った模擬裁判やディベートのワークシートなどの回収、評価を行った。</p> <p>(b) 成果</p> <p>① 公民的分野で意見や疑問を書かせる活動により、主体的に授業に取り組むことができた。</p> <p>② アンケートの「自分自身について」の項目の中で、肯定的な評価が多かった。</p> <p>③ 授業内の評価を丁寧に行うことで、評価に納得する生徒が平成30年度に比べ、9人増えた。</p> <p>(c) 課題</p> <p>① アンケート項目1の予習・復習が他の項目に比べて少ない。</p> <p>② アンケート項目3の授業内容の理解が、平成30年度94.9%から令和元年度90.5%に下がった。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>① 予習よりも復習を重視するように伝え、毎日の学習内容を思い出し、ノートに書き込む方法を伝えた。</p> <p>② 中1・2の週3時間から、中3になって週4時間になり、復習が追いついていないと考えられるので、令和2年度の教科担当にも伝え、日々の復習を大切にすることで内容の定着を図る。</p>
--

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	65	66	21	5	157	83.4%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	74	70	13		157	91.7%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	73	60	24		157	84.7%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	73	61	19	3	156	85.9%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	94	51	8	3	156	92.9%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	94	51	10	2	157	92.4%
7		発問や説明は適切である。	77	61	13	5	156	88.5%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	99	52	6		157	96.2%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	110	37	10		157	93.6%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	119	33	4	1	157	96.8%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>① 体系数学を教材とし、発展的な内容を扱った授業を行う。 ② 中学から高校へ円滑に繋げるため、週に2回高校の先生にTTで入ってもらう。 ③ 完成ノートの提出などは事前に生徒へ連絡し、計画的に学習を進めるように指導する。 ④ 定期テスト、基礎力診断テスト、模擬試験などの振り返りを毎回、その方法も含めて指導し、評価する。 ⑤ 定期テストや基礎力診断テストの結果が良くなかった生徒に対し、補習を行う。 ⑥ 基本となる計算力を高めるため、計算マラソンを実施し、月1回提出させる。 ⑦ 数学検定を年2回実施し、生徒の数学に対する意識を高める。 ⑧ 週1回教科会を実施し、今後の予定や授業内容の確認、学年連絡等の情報交換を行う。 ⑨ 授業後、振り返りシートを記入させ、習得の内容の確認を行ったり、疑問点の吸い上げを行っている。 ⑩ 佐藤先生の数学特別講座を年7回実施し、生徒の数学に対する意識を高める。</p> <p>(b) 成果</p> <p>⑤ 各々の苦手を把握・克服し、次のテストに向けての取り組み方を考える良い機会になっている。 テスト後の反省も含め、勉強するペースの確立につながっている。 ⑥ 計算のスピードや確実性を高めることにつながっている。 ⑧ 教科指導、生徒指導に生かしている。 ⑨ 振り返りシートの内容をもとに、TTを実施する際、個に応じた指導を行うことができた。</p> <p>(c) 課題</p> <p>・予習・復習などの学習の準備をして、意欲的に学習に取り組めていないと感じている生徒や学習した内容を理解できていないと感じている生徒や、活用できないと感じている生徒が若干名いる。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>・自分の力で解けるように、間違えた問題を繰り返し解く習慣をつけさせる。 応用問題を解く機会を増やし、学習した内容を活用できるようにさせる。 ・授業のねらいを黒板に書くなど、到達目標をはっきりさせる。</p>

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	68	72	16	3	159	88.1%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	81	64	14		159	91.2%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	78	62	17	2	159	88.1%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	119	34	5	1	159	96.2%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	134	22	3		159	98.1%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	136	21	2		159	98.7%
7		発問や説明は適切である。	137	18	4		159	97.5%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	140	18	1		159	99.4%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	126	24	8	1	159	94.3%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	135	24			159	100.0%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

①授業内容と日常生活の関わりを考えたり、学んだことをさらに詳しく調べたりする課題を設けた。
 ②高校の先生とTTで地学の授業を行った。
 ③班でプレゼンテーションを行う際に、ICT機器を活用した。
 ④単元ごとに時間数の見直しをもって授業計画を立て、授業を行った。

(b) 成果

①家庭学習で取り組むことが明確になり、平成30年度に比べて、予習・復習に取り組む生徒の割合が増加した。
 ②生徒たちは高校の先生の授業スピードやスタイルに慣れた。また、内容を深く掘り下げて学習することができた。
 ③タブレット端末を用いてプレゼンテーションの準備をしたり、発表をすることができた。ICTの活用は生徒たちにとって新鮮で、主体的・積極的に取り組んだ生徒の割合が増加した。
 ④令和元年度は、あまり計画から遅れることなく授業を行うことができた。

(c) 課題

①授業で学習した内容が身についたと感じる生徒の割合が平成30年度に比べて減少したことが課題である。定期試験が難しく、点数が伸びなかったことで実感が少ないのではないかと考えられる。
 ②授業内に考える時間を確保するために、他の部分を宿題にしたが、宿題になった内容があまり身につけていない様子であった。

(d) 改善策

①定期試験の問題数や難易度を見直す。またテスト以外の場面で学習内容の定着を実感できるような機会を設ける。
 ②宿題や課題として扱った内容についてのフォローを丁寧に行う。

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	132	21	4		157	97.5%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	110	43	4		157	97.5%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	70	61	21	4	156	84.0%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	101	46	9	1	157	93.6%
5		生徒の感性や表現の技能を高めようと授業に熱心に取り組んでいる。	133	22	1		156	99.4%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	119	32	5	1	157	96.2%
7		発問や説明は適切である。	116	33	7	1	157	94.9%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	106	40	7	4	157	93.0%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	127	29	1		157	99.4%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	132	24	1		157	99.4%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 情操的教育を心掛け、常に心で音楽を感じ表現できるよう行った。 ○ 表現活動に必要な音楽的基礎能力の助長に努めた。 ○ 歴史的な背景を意識させながら音楽理論の理解に努めた。 <p>(b) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 作品への接し方や見方の角度を変えることによる表現の違いを発見できた生徒も多かったように思える。 ○ 音楽そのものへの感じ方や関わり方を常に新鮮に捉えられる生徒の増加。 <p>(c) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 音楽的基礎能力の高まりが自己の芸術表現につながるという点について体感させ、自己発展を促す授業展開が必要である。 ○ 自然や人間への興味関心を表現する元となる体験機会が更に必要である。 <p>(d) 改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 音楽的基礎能力についてリズムや楽典を通じ向上させるように努める。 ○ 情操を豊かにする授業をすすめていく為により多くの芸術作品に触れさせるよう努める。

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	137	18	2		157	98.7%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	125	30	2		157	98.7%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	104	49	4		157	97.5%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	129	24	4		157	97.5%
5		生徒の感性や表現の技能を高めようと授業に熱心に取り組んでいる。	127	26	4		157	97.5%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	125	30	2		157	98.7%
7		発問や説明は適切である。	131	25	1		157	99.4%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	112	36	9		157	94.3%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	138	17	2		157	98.7%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	139	15	2	1	157	98.1%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>年間の授業計画に伴い、生徒個人の進捗状況を確認しながら行った。</p> <p>(b) 成果</p> <p>生徒個人個人の取り組みを細かく観察し、評価できた。 時間数が少ないので作品の完成度を上げるのが大変であったが、生徒たちが自ら補習の時間を要望する位の主体性が育まれた。</p> <p>(c) 課題</p> <p>年度当初に年間計画の説明をしているが、忘れていた生徒が多かった。 また、美術が苦手な生徒にも主体的に取り組む姿勢を付けさせる工夫が必要である。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>教材や指導方法の改善だけでなく、自発的創作活動時間を多めにとるなど、生徒の自主性をより高めていきたい。</p>
--

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	128	26	2		156	98.7%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	116	31	9	1	157	93.6%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	106	42	8	1	157	94.3%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	143	12	2		157	98.7%
5		生徒の体力や技能を高めようと授業に熱心に取り組んでいる。	137	18	2		157	98.7%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	128	26	3		157	98.1%
7		発問や説明は適切である。	109	44	4		157	97.5%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	107	41	8	1	157	94.3%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	118	34	3	2	157	96.8%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	114	36	4	3	157	95.5%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>① 中3の保健体育科で最も重要な個人の種目選択が希望通りいよう、早めに年間計画を提示して希望を取り、自主的な人数調整を行った。</p> <p>(b) 成果</p> <p>① 評価項目4「授業の年間計画が明確であり、授業もそれを基本にして進められている」については98.7%が「そう思う」という評価になっているので、年度当初に年間計画を提示し、早い時期に事前調査をした成果が表れた。</p> <p>(c) 課題</p> <p>① 種目選択が希望通りいよう調整を行ったが、評価項目2「主体的、積極的に授業に参加している」については93.6%だった。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>① 生徒がより主体的・積極的に授業に参加できるよう、意欲を引き出す声かけや授業展開を行っていきたい。</p>
--

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	118	25	10	4	157	91.1%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	79	58	13	6	156	87.8%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	70	62	18	6	156	84.6%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	61	60	26	10	157	77.1%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	66	65	19	7	157	83.4%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	44	68	35	10	157	71.3%
7		発問や説明は適切である。	36	57	47	17	157	59.2%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	42	61	41	13	157	65.6%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	71	52	25	7	155	79.4%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	85	53	14	5	157	87.9%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

①植物育成に適する条件や管理できる技術を学ぶ環境をかんがえられる。

②栽培の必要性と世界の食糧状況を含め今後の食糧事情をかんがえていく。

③実際に食糧とする野菜類を栽培管理し体験をさせる。

(b) 成果

①植物育成に適する条件や管理できる技術を学ぶ命の大切さを考えられた。

②栽培の必要性と世界の食糧状況を含め今後の食糧事情をかんがえていく。

③知識学習を実践させることで多くの日本の食糧状況を学べた。

(c) 課題

①家庭科との前期、後期の授業体制には無理があり生物育成や作業場所をかんがえていきたい。

(d) 改善策

①そろそろ年間を通した学習過程をかんがえて実行する時期かと考えました。

②生物育成の畑づくりをぜひ施設設定していただきたい。

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	131	23	2		156	98.7%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	123	27	6		156	96.2%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	112	37	7		156	95.5%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	140	15	1		156	99.4%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	133	21	2		156	98.7%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	139	17			156	100.0%
7		発問や説明は適切である。	136	20			156	100.0%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	129	26	1		156	99.4%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	127	26	3		156	98.1%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	121	28	5	2	156	95.5%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>○多くの中学生にとってあまり親しみの少ない幼児の生活について学習するにあたり、自分自身の振り返りや家族のことなど、身近なことからアプローチし取り組みやすくなるよう工夫した。 ○近隣保育園での園児との交流体験を行った。</p> <p>(b) 成果</p> <p>○保育園児との交流体験は楽しいひと時であり、幼児を理解し、また幼児に対して苦手意識を持っている生徒のその意識を取り除く貴重な体験となっている。また、保育園児にとっても大変楽しい時間になったとの高評価をいただいている。</p> <p>(c) 課題</p> <p>○幼児との触れ合いだけでなく、日常生活における生活体験が不足がちな生徒には、多くの実習を取り入れた授業を展開し期待するところではあるが、実習を多く入れるには授業時数が少ないことが課題である。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>○効率的で分かりやすい内容と小さい実習を取り入れた授業展開を工夫する。</p>
--

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	72	59	21	8	160	81.9%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	112	37	10	1	160	93.1%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	109	43	8		160	95.0%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	132	22	6		160	96.3%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	119	34	7		160	95.6%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	115	30	13	2	160	90.6%
7		発問や説明は適切である。	101	41	18		160	88.8%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	110	40	9	1	160	93.8%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	114	35	10	1	160	93.1%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	125	28	5	2	160	95.6%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>①昨年度に引き続き、手法を変えながら教科書本文に繰り返し何度も触れるラウンドシステムを通して、基礎となる英語の語彙、表現、文法などが自然に身につくような授業を行った。また、1年を通して効果的な訂正フィードバックの研究を教科内で継続的に行った。</p> <p>②全体での課題を出しつつ、昨年度の引き続き、自学マラソンカードを使用し、生徒がそれぞれの課題に応じた学習に取り組むようサポートした。教育委員会の西村指導主事を招き、「自律した学習者になるために」というテーマで特別授業をしていただいた。</p> <p>(b) 成果</p> <p>①3年目となったラウンドシステムに生徒たちも慣れ、目的も十分に理解しているため、授業には前向きに取り組む姿が見られた。ラウンドシステムの特性に加え、教師のフィードバックにも改善を重ねた結果、流暢さの中にも正確さを兼ね備えた生徒が増えてきている。</p> <p>②家庭学習についてのサポートを継続したことやカナダ研修旅行での経験から英語学習への意欲も高まり、中だるみしがちな中学3年生でも大きく数値を下げることなく、80%以上の生徒が意欲的に学習に取り組んでいる。(項目2番81.8%→81.9%)</p> <p>(c) 課題</p> <p>①6番の項目: 96.9%→90.6%</p> <p>②7番の項目: 98.1%→88.8%</p> <p>どちらの項目も教員側が話す場面での課題である。今年度は前年よりも文法整理の時間を増やしたことや新たな取り組みも増えたことで生徒の流暢さや正確性が上がってきていると実感しているが、その際の説明や目的の共有が不十分だったと考える。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>課題の①②については教科会を通して、各活動の目的や説明を再確認し、生徒が目的を理解して活動ができるよう説明する。また、文法整理をする際のおかた説明や理解が難しかった項目などを教科会で共有し、改善する。</p> <p>今年度行った取り組みを引き続き行っていく中で、その時の生徒の実態に合わせたマイナーチェンジ(会話のトピックや文法事項の整理)を行っていく。家庭学習に関しては、高校での学びを具体的にイメージさせる中で、さらに多くの生徒が意欲的に復習を中心に取り組めるよう促す。</p>
--